

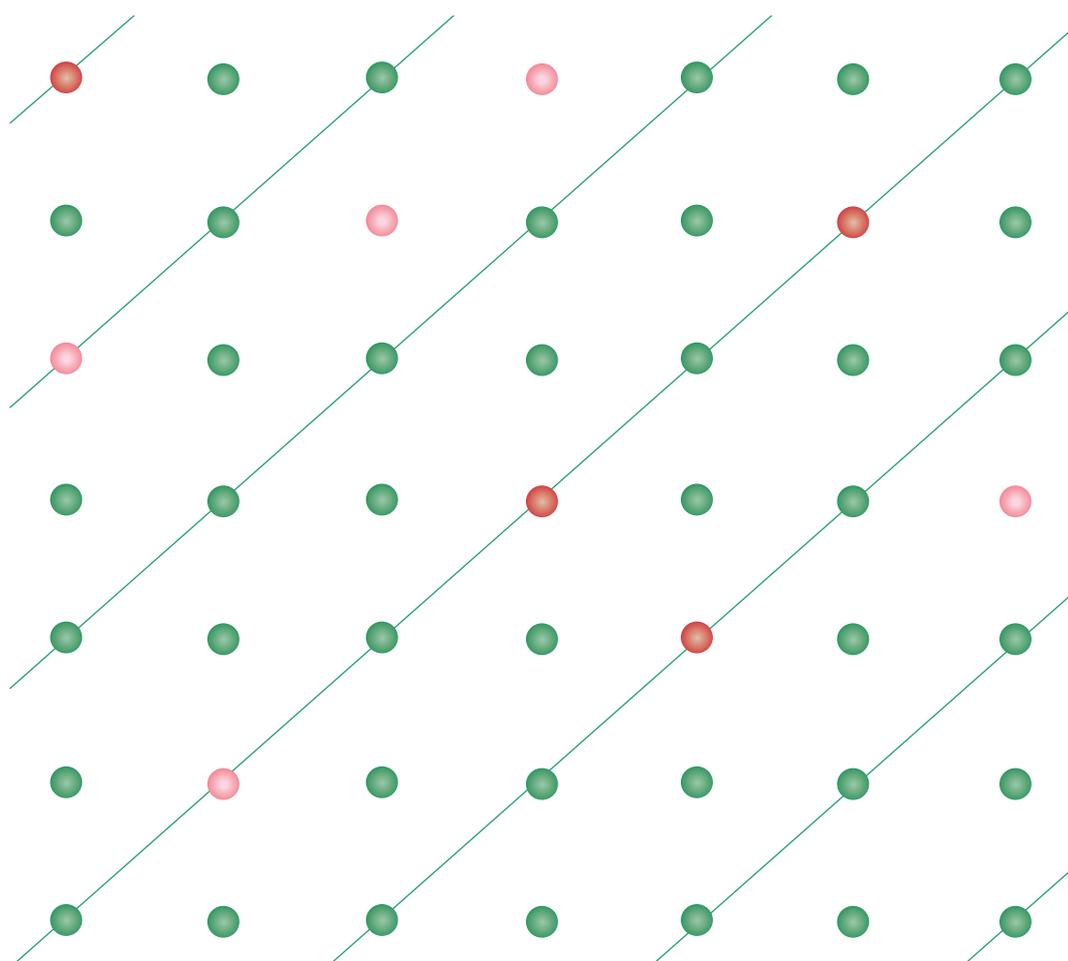
# シラバス

2022年度

リハビリテーション学科

理学療法専攻

2021年度以前入学生



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

# 建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

## 教育目的

### 1 全学の目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

### 2 看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

### 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

### 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

### 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
- ②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

# 学習成果

## 1 全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

## 2 看護学科

- (1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
- (2) 看護の専門基礎知識の修得
- (3) 看護の専門知識・技術の修得
- (4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
- (3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
- (4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
- (5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
- (6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

# 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

## 1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

## 2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
- (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
- (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
- (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

# 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

## 2 看護学科

- (1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
- (3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
- (4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

#### 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

#### 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。



# 履修要領

リハビリテーション学科

理学療法専攻

2021年度以前入学生



# 履修要領

## 1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的にすすむように編成しています。

## 2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

## 3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

リハビリテーション学科の各専攻に配置した「専門基礎科目」には、理学療法士、作業療法士、視能訓練士としての基礎的知識を得る上で、必要不可欠である基礎医学に関する科目群を配置しています。

「専門科目」には、医療技術に精通した理学療法士、作業療法士、視能訓練士を育成するために必要である科目群を系統立てて配置しています。これらを学ぶ中で、教育目標としている施設や地域を問わず医療技術者としての高いコミュニケーション能力と倫理的判断力、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成するために、教員との関わりが多く持てる演習を多く取り入れています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜リハビリテーション学科 理学療法専攻＞ 2019年度以前入学生

区分		授業科目	単位数		卒業要件	
			必修	選択		
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
	人間と社会	社会学		2		
		人間関係論		2		2
		ボランティア論		2		
		哲学		2		
		教育学		2		2
		心理学		2	2	
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	2		2
			基礎演習	1		
			文章表現法	1		3
		外国語	コミュニケーション学	1		
			英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	
専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1			
		解剖学Ⅱ(内臓系)	1			
		解剖学Ⅲ(神経系)	1			
		解剖学演習(体表解剖・上肢)	1			
		解剖学演習(体表解剖・下肢)	1			
		生理学Ⅰ(動物的機能)	1			
	人体の機能	生理学Ⅱ(植物的機能)	1			
		生理学演習	1			
		運動学総論	1			
		臨床運動学	1			
		運動学演習	1			
		人間発達学	1		1	
	心身の発達	病理学概論	2			
		内科学	1			
		整形外科	1			
		神経内科学	1			
		精神医学	2			
		小児科学	2			
疾病の成り立ち	リハビリテーション医学	2			2	
	老年医学		1			
	スポーツ医学		1		1	
	保健医療論	1				
	社会福祉学	1				
	医療安全管理論	1				
障害の成り立ち	理学療法総論	1				
	理学療法演習	1				
	運動療法総論	1				
	理学療法基礎用語	1				
	理学療法研究方法論	1				
	理学療法特論Ⅰ	1				
保健・医療・福祉の連携	理学療法特論Ⅱ	1				
	卒業研究		2		2	
	クリニカルリーズニング		2			
	専門教育科目	基礎理学療法学	運動器系検査法	1		
			神経系検査法	1		
			動作・画像解析学	1		
理学療法評価学演習			2			
高齢者機能障害学			2			
脳・神経機能障害学Ⅰ(総論)			1			
理学療法評価学		脳・神経機能障害学Ⅱ(各論)	1			
		骨・関節機能障害学(上肢)	1			
		骨・関節機能障害学(下肢・体幹)	1			
		内部機能障害学(循環器系)	1			
		内部機能障害学(代謝・呼吸器系)	1			
		発達機能障害学	1			
理学療法治療学		物理学療法(温熱療法)	1			
		物理学療法(電気・牽引・水治療法)	1			
		義肢装具学	2			
		日常生活活動学	2			
		理学療法総合セミナーⅠ	1			
		理学療法総合セミナーⅡ	1			
	脳・神経系理学療法治療技術	1				
	骨・関節系理学療法治療技術	1				
	内部系理学療法治療技術	1				
	地域理学療法学	地域理学療法学	2			
		生活環境論	2			
		臨床実習Ⅰ(基礎)	1			
		評価実習前セミナー	1			
		臨床実習Ⅱ(評価)	3			
		臨床実習Ⅲ(総合前期)	7			
	臨床実習	臨床実習Ⅳ(総合後期)	7			
		合計				99

＜リハビリテーション学科 理学療法専攻＞ 2020～2021年度入学生

区分		授業科目	単位数		卒業要件		
			必修	選択			
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2	
		物理学		2			
		化学		2			
		情報科学		2			
		人間工学		2			
		環境と人間		2			
		社会学		2			
		人間関係論		2			
		ポランディア論		2			
		哲学		2			
	人間と社会	教育学		2		2	
	心理学		2				
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	2			2
			基礎演習	1			
			文章表現法	1			
			コミュニケーション学	1			
			英語Ⅰ(教養英語)	1			
		外国語	英語Ⅱ(日常英会話)		1		
			英語Ⅲ(専門英語)		1		
			ドイツ語		1		
中国語				1			
合計							1
専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1				
		解剖学Ⅱ(内臓系)	1				
		解剖学Ⅲ(神経系)	1				
		解剖学演習(体表解剖 上肢)	2				
		解剖学演習(体表解剖 下肢)	2				
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1			
			生理学Ⅱ(植物的機能)	1			
			生理学演習	1			
			運動学総論	1			
			臨床運動学	1			
	運動学演習		1				
	心身の発達		人間発達学	1			
			病理学概論	2			
			内科学	1			
			整形外科	1			
		神経内科学	1				
		精神医学	2				
		小児科学	2				
		疾病の成り立ち	リハビリテーション医学	2			
			老年医学		1		
			スポーツ医学		1		
	障害の成り立ち		公衆衛生学	1			
			画像診断学	1			
			リハビリテーション栄養学	1			
			薬理学	1			
			医療安全管理論	1			
			保健医療論	1			
			社会福祉学	1			
		多職種連携演習 (IPE)	2				
		回復過程の促進	理学療法総論	1			
			理学療法演習	1			
	運動療法総論		1				
	理学療法基礎用語		1				
	理学療法研究方法論		1				
	理学療法特論		1				
	卒業研究			2			
	クリニカルリーディング			2			
	保健・医療・福祉の連携		理学療法管理学Ⅰ	1			
			理学療法管理学Ⅱ	1			
		運動器系検査法	1				
神経系検査法		1					
動作・画像解析学		2					
理学療法評価学演習		2					
高齢者機能障害学		2					
脳・神経機能障害学Ⅰ(総論)		1					
脳・神経機能障害学Ⅱ(各論)		1					
骨・関節機能障害学(上肢)		1					
骨・関節機能障害学(下肢・体幹)	1						
基礎理学療法学	内部機能障害学(循環器系)	1					
	内部機能障害学(代謝・呼吸器系)	1					
	発達機能障害学	1					
	理学療法(温熱療法)	1					
	理学療法(電気・牽引・水治療法)	1					
	義肢装具学	2					
	日常生活活動学	2					
	理学療法総合セミナーⅠ	1					
	理学療法総合セミナーⅡ	1					
	脳・神経系理学療法治療技術	1					
骨・関節系理学療法治療技術	1						
内部系理学療法治療技術	1						
理学療法管理学	地域理学療法学	2					
	生活環境論	2					
	臨床実習Ⅰ(基礎)	1					
	通所/訪問リハ実習	1					
	評価実習前セミナー	1					
	臨床実習Ⅱ(評価)	4					
	評価実習後セミナー	1					
	臨床実習Ⅲ(総合前期)	7					
	総合前期実習後セミナー	1					
	臨床実習Ⅳ(総合後期)	7					
総合後期実習後セミナー	1						
理学療法評価学	合計					114	

#### 4. 履修方法等

##### 1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

##### 2) 授業

###### ① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を Google Classroom で配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 Google Classroom で配信しますので始業前等には必ず確認してください。

###### ② 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

###### ③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

###### ④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 Google Classroom で連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から15分を経過しても担当教員が教室にこない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

###### ⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は Google Classroom で連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

##### 3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

###### <履修上の注意事項>

- ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。
- イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

##### 4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

###### <履修登録の上限単位数 (CAP 制) >

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を55単位としています。

5) 授業の出・欠席の取り扱い

- ① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- ② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。
- ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。
- イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。
- ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。
- エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。
- オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。
- カ. 同一科目において遅刻、早退 2 回をもって 1 時限の欠課となります。
- ③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限ります。
- ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合
- イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	5 日	3 日	2 日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

- ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。
- エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合
- ※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。  
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。
- ④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも 3 日以内（土・日・祝含まず）に事務室へ提出しなければなりません。  
なお、②の遅刻・早退届については、当日教員に直接提出してください。

5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	40名
英語Ⅱ（日常英会話）A	40名
英語Ⅱ（日常英会話）B	60名
英語Ⅱ（日常英会話）C	40名
英語Ⅲ（専門英語）	60名
ドイツ語	40名
中国語	40名

6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

<リハビリテーション学科理学療法専攻実習科目の履修前提条件>

2019年度以前入学生

実習科目名	年次	履修条件科目(単位修得済み科目)
臨床実習Ⅱ(評価)	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて72単位以上
臨床実習Ⅲ(総合前期)	3	臨床実習Ⅱ(評価)
臨床実習Ⅳ(総合後期)	3	臨床実習Ⅲ(総合前期)

2020～2021年度入学生

実習科目名	年次	履修条件科目(単位修得済み科目)
臨床実習Ⅱ(評価)	2	1年次、2年次必修科目すべて、かつ選択科目を含めて85単位以上
臨床実習Ⅲ(総合前期)	3	臨床実習Ⅱ(評価)、評価実習後セミナー
臨床実習Ⅳ(総合後期)	3	臨床実習Ⅲ(総合前期)、総合前期実習後セミナー

## 7. 試験、成績評価及び単位の授与

### 1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

#### ① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

#### ② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

#### ③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

#### ④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

#### ⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

### 2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

### 3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

### 4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机の上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

## 5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第26条第2項)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可、失格の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	100点～90点	100点～90点	なし
優	89点～80点	89点～80点	なし
良	79点～70点	79点～70点	なし
可	69点～60点	69点～60点	100点～60点
不可	60点未満	60点未満	60点未満
失格	受験資格なし	—	—

### <実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の5/6以上を対象とし、成績評価は、秀、優、良、可、不可、失格とします。出席が当該実習科目の授業時間数の5/6に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

### <GPA> \*グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA 算出方法] \*小数第三位四捨五入

$$\frac{([\text{秀}] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

\*GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

\*不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

\*GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

\*入学前既修得単位(単位認定科目)はGPA対象外です。

### <GPAに基づく個別指導、退学勧告>

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

## 6) 成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 Google Classroom にてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は Google Classroom にてお知らせします。

## 8. 単位について

### 1) 単位の計算方法

学則第24条により、次のように定めています。

第24条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業1時間当たりの換算時間
講義	3時間
演習	1.5時間
実習・実験・実技	1時間

### 2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1単位の学修時間を45時間としながら、実際の講義については15時間(30時間)で1単位としています。これは、45時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

## 9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

### 1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、本学学則の別表1に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。

### 2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、「短期大学士(理学療法学)」(英訳名: Associate of Science in Physical Therapy)の学位が授与され、理学療法士国家試験の受験資格が得られます。

この国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。

<リハビリテーション学科 理学療法専攻の卒業要件単位数>

2019年度以前入学生

区 分			必 修	選 択	合 計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	2単位	2単位以上	4単位以上
		人間と社会	2単位	4単位以上	6単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3単位	—	3単位
		外国語	1単位	1単位以上	2単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	5単位	—	5単位
		人体の機能	6単位	—	6単位
		心身の発達	1単位	—	1単位
		疾病の成り立ち	9単位	—	9単位
		障害の成り立ち	2単位	1単位以上	3単位以上
		保健・医療・福祉の連携	3単位	—	3単位
	専門科目	基礎理学療法学	7単位	2単位以上	9単位以上
		理学療法評価学	5単位	—	5単位
		理学療法治療学	20単位	—	20単位
		地域理学療法学	4単位	—	4単位
		臨床実習	19単位	—	19単位
合 計			89単位	10単位以上	99単位以上

2020年度以降入学生

区 分			必 修	選 択	合 計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	2単位	2単位以上	4単位以上
		人間と社会	2単位	4単位以上	6単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3単位	—	3単位
		外国語	1単位	1単位以上	2単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造	7単位	—	7単位
		人体の機能	6単位	—	6単位
		心身の発達	1単位	—	1単位
		疾病の成り立ち	9単位	—	9単位
		障害の成り立ち	2単位	1単位以上	3単位以上
		回復過程の促進	5単位	—	5単位
		保健・医療・福祉の連携	4単位	—	4単位
	専門科目	基礎理学療法学	6単位	2単位以上	8単位以上
		理学療法管理学	2単位	—	2単位
		理学療法評価学	6単位	—	6単位
		理学療法治療学	20単位	—	20単位
地域理学療法学	4単位	—	4単位		
臨床実習	24単位	—	24単位		
合 計			104単位	10単位以上	114単位以上

# カリキュラムマップ<リハビリテーション> 2019年度以前入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく  
**教育目的**  
 全学・教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。  
 リハビリテーション・理学療法専攻・深い人間愛をもち、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもち理学療法士を養成する。

- ① 医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ② 対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③ 生涯にわたって、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

※ディプロマ・ホルダーの番号は、P3該当番号

全学方針	教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		1年次		2年次		3年次		ディプロマ・ホルダー	理学療法専攻	
	全学方針	学科学科方針	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
<p>社会生活に求められる教養、倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるための総合教育科目を配置する。</p> <p>専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・専攻の基礎知識、技術及び実践力を身につけるための学科学科・専攻課程ごとに、次のとおり配置する。</p>	<p>① 医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士</p> <p>② 対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士</p> <p>③ 生涯にわたって、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士</p>	<p>人間と科学</p> <p>生物学 化学 人間工学 社会学 人間関係論 コミュニケーション論 基礎演習 文章表現法 英語Ⅰ(教養英語)</p>	<p>情報科学 環境と人間 数学 物理学 心理学 コミュニケーション学 英語Ⅱ(日常英会話) ドイツ語 中国語</p>	<p>前期学演習(体表解剖 下肢) 生理学Ⅰ(構造的機能) 生理解剖学 臨床運動学 人間発達学 人間学概論</p>	<p>後期学演習(体表解剖 下肢) 生理学Ⅱ(機能的機能) 生理解剖学 臨床運動学 人間発達学 人間学概論</p>	<p>理学療法研究法論 運動器系検査法 神経系検査法 動作・画像解析学 高齢者機能障害学(総論) 脳・神経機能障害学(上肢) 脳・神経機能障害学(下肢・体幹) 内部臓器障害学(電気・牽引・水治療法) 物理療法学(温熱療法) 日常生活活動学 理学療法総合セミナーⅠ</p>	<p>理学療法研究法論Ⅰ 卒業研究 「2+1」プログラム 脳・神経系理学療法治療技術 骨・関節系理学療法治療技術 内部系理学療法治療技術</p>	<p>前期学演習 脳・神経機能障害学Ⅱ(各論) 骨・関節機能障害学(上肢) 骨・関節機能障害学(下肢・体幹) 発達機能障害学 義肢装具学 理学療法総合セミナーⅡ 地理理学療法 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価)</p>	<p>後期学演習 脳・神経機能障害学Ⅱ(各論) 骨・関節機能障害学(上肢) 骨・関節機能障害学(下肢・体幹) 発達機能障害学 義肢装具学 理学療法総合セミナーⅡ 地理理学療法 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価)</p>	<p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>(2) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の習得</p> <p>(3) 医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の習得</p> <p>(4) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割を担うための能力の修得</p>	<p>(1) 幅広い視野と豊かな教養を身につけて、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p> <p>(2) 身体・精神の健康を維持し、地域・保健・医療・福祉に貢献する能力を身につけている。</p> <p>(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重し、人間的関係を構築する。</p> <p>(4) 学術研究活動を通して、理学療法に関する課題を解決するための科学的思考を身につけている。また、理学療法士の役割を担うための知識・技術・実践力を身につけている。</p>
<p>専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・専攻の基礎知識、技術及び実践力を身につけるための学科学科・専攻課程ごとに、次のとおり配置する。</p>	<p>臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で構成された科目を履修し、十分な理学療法を履修できる能力を身につけるため、理学療法専門科目(臨床実習)を配置する。</p> <p>理学療法士としての目と心を育て、理学療法に關する課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それと連動した専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。</p>										

# カリキュラムマップ<リハビリテーション学科学療法専攻> 2020年~2021年度入学生

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく全学…教育基本法の精神に則り、学教教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

教育目的 リハビリテーション学科学療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもちつ理学療法士を養成する。

①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士

②対象者と保護・医療・福祉領域に關する従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士

③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

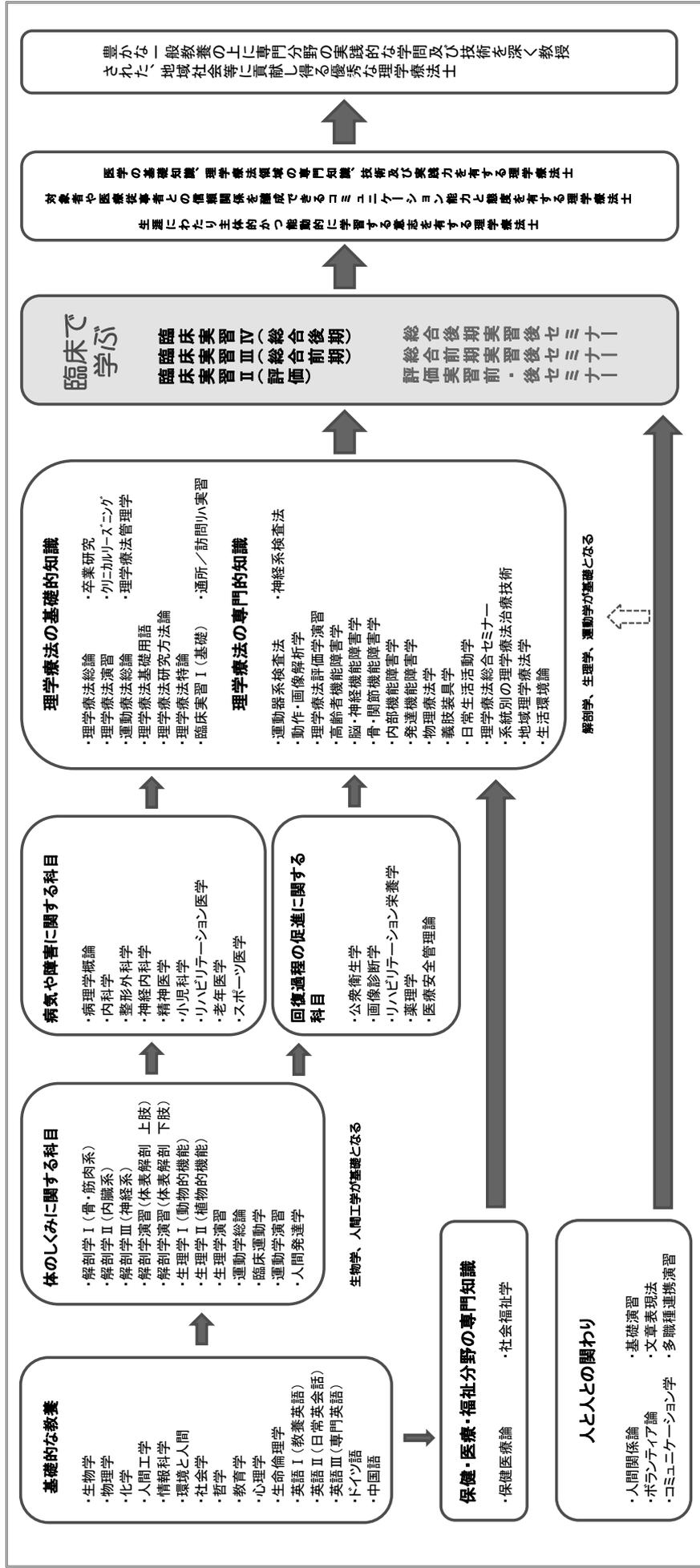
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

カリキュラム・ポリシー 全学方針	教育目的に基づく ディプロマ・ポリシー		1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
	全学方針	ディプロマ・ポリシー	前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	ディプロマ・ポリシー
社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身に付けるため、人間と社会の関わりを学ぶ。また、科学的・コミュニケーション等の総合科目を配置する。	人間と科学 人間と社会	生物物理学 化学 人間工学 社会学 人間関係論 英会話 英会話 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) 中国語	情報科学 環境と人間 哲学 倫理学 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) 中国語	情報科学 環境と人間 哲学 倫理学 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) 中国語	後期 生倫理学	前期 生倫理学	後期 生倫理学	前期 生倫理学	(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の習得 (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などを身に付ける。 (2) 本学を通して、専門分野として求められる専門知識、技術及び実践力を身に付ける。 (3) 対象者と保護・医療・福祉等に關する従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身に付ける。	後期 生倫理学	前期 生倫理学
身体・心の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的学習を用いて疾病や物理的学習を用いて身体機能及び心身の機能を回復させるための専門基礎科目を配置する。	人間の構造 人間の機能 心身の発達 疾病の成り立ち	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	後期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	前期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	後期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	前期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	(1) 身体・心の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的学習を用いて疾病や物理的学習を用いて身体機能及び心身の機能を回復させるための専門基礎科目を配置する。 (2) 本学を通して、専門分野として求められる専門知識、技術及び実践力を身に付ける。 (3) 対象者と保護・医療・福祉等に關する従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身に付ける。	後期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学	前期 解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 生理学Ⅰ(機能的機能) 生理学Ⅱ(機能的機能) 運動学総論 人間発達学
地域の保健・医療・福祉分野における理学療法士の役割、生活環境に対する身体的学習方法について理解するとともに、職業の発展や年代にかかわらず、全ての人が住みやすい地域を生活できるように支えるための専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。	理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	後期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	前期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	後期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	前期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	(1) 地域の保健・医療・福祉分野における理学療法士の役割、生活環境に対する身体的学習方法について理解するとともに、職業の発展や年代にかかわらず、全ての人が住みやすい地域を生活できるように支えるための専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。 (2) 本学を通して、専門分野として求められる専門知識、技術及び実践力を身に付ける。 (3) 対象者と保護・医療・福祉等に關する従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身に付ける。	後期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学	前期 理学療法学 理学療法基礎用語 理学療法評価学 理学療法治療学
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門知識を学習し、それらの学科学問・実践力に期待する科目を配置する。	臨床実習 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	臨床実習 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	臨床実習 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	臨床実習 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	後期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	前期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	後期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	前期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	(1) 専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門知識を学習し、それらの学科学問・実践力に期待する科目を配置する。 (2) 本学を通して、専門分野として求められる専門知識、技術及び実践力を身に付ける。 (3) 対象者と保護・医療・福祉等に關する従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身に付ける。	後期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)	前期 臨床実習Ⅰ(基礎) 臨床実習Ⅱ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 臨床実習Ⅳ(総合後期)

# 科目関連図

各科目がどのようなように関連しているかを理解して学習をすすめる。

## ＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2020～2021年度入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科理学療法専攻＞ 2020～2021年度入学生

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 上肢) 解剖学演習(体表解剖 下肢) 生理学Ⅰ(動物的功能) 生理学Ⅱ(植物的功能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 スポーツ医学 公衆衛生学 画像診断学 リハビリテーション栄養学 薬理学 医療安全管理論 保健医療論 社会福祉学 多職種連携演習(IPE)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の習得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	理学療法総論 理学療法演習 運動療法総論 理学療法基礎用語 理学療法研究方法論 理学療法学特論 卒業研究 クリニカルリーズニング 理学療法管理学Ⅰ 理学療法管理学Ⅱ 運動器系検査法 神経系検査法 動作・画像解析学 理学療法評価学演習 高齢者機能障害学 脳・神経機能障害学Ⅰ(総論) 脳・神経機能障害学Ⅱ(各論) 骨・関節機能障害学(上肢) 骨・関節機能障害学(下肢・体幹) 内部機能障害学(循環器系) 内部機能障害学(代謝・呼吸器系) 発達機能障害学 物理療法学(温熱療法) 物理療法学(電気・牽引・水治療法) 義肢装具学 日常生活活動学 理学療法総合セミナーⅠ 理学療法総合セミナーⅡ 脳・神経系理学療法治療技術 骨・関節系理学療法治療技術 内部系理学療法治療技術 地域理学療法学 生活環境論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 通所/訪問リハ実習 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 評価実習後セミナー 臨床実習Ⅲ(総合前期) 総合前期実習後セミナー 臨床実習Ⅳ(総合後期) 総合後期実習後セミナー	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

# シラバス

リハビリテーション学科

理学療法専攻

2021年度以前入学生



◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻

◆ 総合教育科目 ◆

科目区分	科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ	
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	
		物理学	1年次前学期	中村 琢	
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	
		情報科学	1年次後学期	福岡大輔	
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	
		教育学	1年次後学期	益川優子	
		心理学	1年次後学期	大井修三	
		生命倫理学	3年次前学期	谷口泰弘	24
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1年次前学期	辻 圭一、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努	
		文章表現法	1年次前学期	弓削 繁	
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	
	外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1年次前学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ(日常英会話)A	1年次後学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ(日常英会話)B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		英語Ⅲ(専門英語)	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	

◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分	科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系)	1年次前学期	千田隆夫	
	解剖学Ⅱ(内臓系)	1年次前学期	江村正一	
	解剖学Ⅲ(神経系)	1年次後学期	堀 信宏、近藤直実、河村章史、大場かおり、藤橋雄一郎	
	解剖学演習(体表解剖 上肢)	1年次前学期	田島嘉人、亀山咲子	
	解剖学演習(体表解剖 下肢)	1年次後学期	田島嘉人、亀山咲子	
人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1年次前学期	石田裕保	
	生理学Ⅱ(植物的機能)	1年次後学期	川島 卓	
	生理学演習	1年次後学期	河合克尚、藤橋雄一郎、植木 努	
	運動学総論	1年次前学期	堀 信宏	
	臨床運動学	1年次後学期	曾田直樹	
	運動学演習	2年次前学期	曾田直樹、大場かおり、田島嘉人、石田裕保	26
心身の発達	人間発達学	1年次前学期	大森正英	
疾病の成り立ち	病理学概論	1年次後学期	武内康雄、山本容正	
	内科学	2年次前学期	近藤直実、平野智久、山本眞由美、高田信幸、坂 義人、古田弥生	28
	整形外科学	2年次前学期	西本 裕	30
	神経内科学	2年次前学期	木村暁夫、下畑享良、山田 恵、吉倉延亮、國枝顕二郎、東田和博、竹腰 顕	32
	精神医学	2年次前学期	宮地幸雄	34
	小児科学	2年次前学期	近藤直実、近藤富雄、堀田 亮	36
障害の成り立ち	リハビリテーション医学	1年次後学期	西本 裕	
	老年医学	1年次後学期	武内康雄	
	スポーツ医学	1年次後学期	松岡敏男	
回復過程の促進	公衆衛生学	1年次後学期	大森正英	
	画像診断学	3年次後学期	辻圭一、河合克尚、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	38
	リハビリテーション栄養学	1年次前学期	久保和弘	
	薬理学	2年次前学期	大津航	40
	医療安全管理論	1年次後学期	眞田正世	
保健・医療・福祉の連携	保健医療論	1年次前学期	松岡敏男	
	社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	
	多職種連携演習(IPE)	2年次後学期	田島嘉人、亀山咲子 他	42

専門基礎科目

◎ リハビリテーション学科 理学療法専攻

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分	科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ	
基礎理学療法学	理学療法総論	1年次前学期	長谷部武久		
	理学療法演習	1年次前学期	植木 努、石田裕保、藤橋雄一郎、辻 圭一		
	運動療法総論	1年次後学期	長谷部武久、河合克尚、亀山咲子		
	理学療法基礎用語	1年次前学期	藤橋雄一郎		
	理学療法研究方法論	2年次前学期	長谷部武久	44	
	理学療法特論	3年次後学期	河合克尚、辻 圭一、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎	46	
	卒業研究	3年次前学期	曾田直樹、大場かおり、田島嘉人	48	
	クリニカルリーズニング	3年次前学期	堀 信宏、曾田直樹、亀山咲子	51	
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	2年次後学期	岸本泰樹	54
		理学療法管理学Ⅱ	3年次前学期	岸本泰樹	56
理学療法評価学	運動器系検査法	2年次前学期	曾田直樹、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	58	
	神経系検査法	2年次前学期	河合克尚、辻 圭一、石田裕保、亀山咲子	60	
	動作・画像解析学	2年次前学期	堀 信宏、石田裕保	62	
	理学療法評価学演習	2年次後学期	河合克尚、大場かおり、曾田直樹、堀 信宏、田島嘉人、藤橋雄一郎、植木 努、辻 圭一、石田裕保、亀山咲子、澤村彰吾	64	
理学療法治療学	高齢者機能障害学	2年次前学期	堀 信宏	67	
	脳・神経機能障害学Ⅰ(総論)	2年次前学期	堀 信宏、大場かおり	69	
	脳・神経機能障害学Ⅱ(各論)	2年次後学期	堀 信宏、大場かおり	71	
	骨・関節機能障害学(上肢)	2年次後学期	田島嘉人	73	
	骨・関節機能障害学(下肢・体幹)	2年次前学期	曾田直樹	75	
	内部機能障害学(循環器系)	2年次前学期	長谷部武久、河合克尚	77	
	内部機能障害学(代謝・呼吸器系)	2年次後学期	河合克尚、亀山咲子	79	
	発達機能障害学	2年次後学期	松田充弘	81	
	物理療法学(温熱療法)	2年次前学期	大場かおり	83	
	物理療法学(電気・牽引・水治療法)	2年次後学期	辻 圭一	85	
	義肢装具学	2年次後学期	石田裕保、篠田信之	87	
	日常生活活動学	2年次前学期	石田裕保、大場かおり、亀山咲子	89	
	理学療法総合セミナーⅠ	2年次前学期	石田裕保、長谷部武久、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	91	
	理学療法総合セミナーⅡ	2年次後学期	石田裕保、長谷部武久、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努	93	
	脳・神経系理学療法治療技術	3年次前学期	堀 信宏、藤橋雄一郎	95	
	骨・関節系理学療法治療技術	3年次前学期	曾田直樹、田島嘉人	97	
	内部系理学療法治療技術	3年次前学期	河合克尚	99	
地域理学療法学	地域理学療法学	2年次後学期	堀 信宏	101	
	生活環境論	1年次後学期	植木 努		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(基礎)	1年次後学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾		
	通所/訪問リハ実習	2年次前学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	103	
	評価実習前セミナー	2年次後学期	曾田直樹、河合克尚、大場かおり、田島嘉人、石田裕保、辻 圭一、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	105	
	臨床実習Ⅱ(評価)	2年次後学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	107	
	評価実習後セミナー	2年次後学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	109	
	臨床実習Ⅲ(総合前期)	3年次前学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	111	
	総合前期実習後セミナー	3年次前学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	113	
	臨床実習Ⅳ(総合後期)	3年次後学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	115	
	総合後期実習後セミナー	3年次後学期	長谷部武久、曾田直樹、堀 信宏、河合克尚、辻 圭一、田島嘉人、大場かおり、石田裕保、藤橋雄一郎、植木 努、亀山咲子、澤村彰吾	117	

専門科目

授業科目名		担当教員				
生命倫理学		谷口 泰弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 前学期	2単位(30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1)(3) 作業ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授業概要						
<p>バイオエシックス(生命倫理学)の基礎的な事項を学ぶ。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の医療に関する倫理的問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説する。</p>						
学修の到達目標						
<p>医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。</p> <p>①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳を理解する。</p> <p>②講義の各論から、医療に係る倫理的問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。</p>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①(ガイダンス、基礎概念)	①	谷口	講義	予習(120分) 教科書第1章前半部分	復習(120分) 教科書第1章前半部分と配布資料
2	バイオエシックス総論②(歴史的背景WW II以前)	①	谷口	講義	予習(120分) 教科書第1章後半部分	復習(120分) 教科書第1章後半部分と配布資料
3	バイオエシックス総論③(歴史的背景WW II以後)	①	谷口	講義	予習(120分) 教科書第2章前半部分	復習(120分) 教科書第2章前半部分と配布資料
4	自己決定と人間の尊厳(インフォームド・コンセント)	①	谷口	講義	予習(120分) 教科書第3章部分	復習(120分) 教科書第3章部分と配布資料
5	倫理理論の考え方(応用倫理学からのアプローチ)	①	谷口	講義	予習(120分) 教科書第2章後半部分	復習(120分) 教科書第2章後半部分と配布資料
6	生殖補助医療の問題①(人工授精、体外受精、代理母)	②	谷口	講義	予習(120分) 教科書第4章前半部分	復習(120分) 教科書第4章前半部分と配布資料
7	生殖補助医療の問題②(出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶)	②	谷口	講義	予習(120分) 教科書第4章後半部分	復習(120分) 教科書第4章後半部分と配布資料
8	遺伝子をめぐる問題(ヒトゲノムの利用、遺伝子特許、個人情報、エンハンスメント)	②	谷口	講義	予習(120分) 教科書第5章部分	復習(120分) 教科書第5章部分と配布資料
9	ライフサイエンス研究をめぐる問題(再生医療、ヒトES細胞研究、ヒトiPS細胞研究)	②	谷口	講義	予習(120分) 再生医療に関する倫理的問題を調べる	復習(120分) 配布資料を復習する

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第6章部分	復習（120分） 教科書第6章部分と配布資料
11	終末期をめぐる問題①（尊厳死、安楽死）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章前半部分	復習（120分） 教科書第7章前半部分と配布資料
12	終末期をめぐる問題②（治療中止、鎮静、緩和医療）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章後半部分	復習（120分） 教科書第7章後半部分と配布資料
13	医療と法律（医療事故関係、医療契約）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第14章部分	復習（120分） 教科書第14章部分と配布資料
14	広義のバイオエシックス（動物倫理、環境倫理）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第10章部分	復習（120分） 教科書第10章部分と配布資料
15	研究をめぐる倫理（研究不正、倫理委員会、オーサーシップ、利益相反等）	②	谷口	講義	予習（120分） 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を予め調べる	復習（120分） 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を復習する
	定期試験（筆記）	① ②	谷口	試験		
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解および思考とする。その評価方法は、定期試験を実施して評価する（80%） ミニレポート等の提出物の内容も評価に入れる（20%）						
使用教科書						
第3版 生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか、--改訂版--医療科学社、2022年、ISBN978-4-86003-133-6						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。					
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けませんが、講義終了後に教室に残り質問等について対応する（この時間を活用してください）。					

授業科目名		担当教員				
運動学演習		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保 (代表教員 曾田直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)、石田裕保(理学療法士)				
授業概要						
運動学総論、臨床運動学で学んだ知識を演習によって確認する。生体が運動や動作を実施したときの反応を測定し、データを用いて研究報告レポートを作成する。測定機器は理学療法士に関連の深いものを使用しますので、その取り扱いに習熟できるよう努力して下さい。レポート作成においては、基礎知識と実際の測定データを比較し自分なりの考察をすることで、運動についての理解が深まる。グループワークを通じて運動学の理解を深める。						
学修の到達目標						
①グループ活動を通じて協力、報告、連絡、相談の重要性を学ぶ。 ②平衡機能・筋力・歩行分析を測定する意義を説明できる。 ③平衡機能・筋力・歩行分析を機器を用いて評価することができる。 ④平衡機能・筋力・歩行分析の結果の意味を考察することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動学演習オリエンテーション	① ② ③ ④	曾田			レポートの作成(60分)
2	演習内容の説明	① ② ③ ④	曾田		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
3	レポート作成について	① ② ③ ④	曾田		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
4	重心動揺(意義)	① ② ③ ④	大場		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
5	重心動揺(測定方法)	① ② ③ ④	大場		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
6	重心動揺(実施)	① ② ③ ④	大場		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
7	重心動揺(論文作成)	① ② ③ ④	大場		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
8	筋機能測定(意義)	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)
9	筋機能測定(測定方法)	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成(30分)	レポートの作成(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	筋機能測定（論文作成）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
11	筋機能測定（論文作成）	① ② ③ ④	曾田 田島		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
12	歩行分析（意義）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
13	歩行分析（測定方法）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
14	歩行分析（実施）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
15	歩行分析（論文作成）	① ② ③ ④	石田		レポートの作成 (30分)	レポートの作成 (30分)
	レポート提出					
評価基準・評価方法						
評価基準および評価方法：グループ活動への取り組み状況（10%）、研究レポートの内容（90%）						
使用教科書						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義内で解説					
備考	オフィスアワー 曾田 月曜日 12:15～13:15 大場 火曜日 16:30～17:30 田島 水曜日 16:30～17:30 石田 火曜日 16:30～17:30					

授業科目名		担当教員				
内科学		近藤 直実・平野 智久・山本 眞由美・高田 信幸・坂 義人・古田 弥生 (代表教員 近藤 直実)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位(30時間)		講義 小ゼミ		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		近藤直実(医師)、平野智久(医師)、山本眞由美(医師)、高田信幸(医師)、坂義人(医師)、古田弥生(看護師)				
授業概要						
内科系疾患などの病態・診察・診断・治療について、およびそのアプローチを学ぶ。						
学修の到達目標						
①各論としては循環器系、代謝、内分泌系、消化器系、腎臓疾患、呼吸器系、血液疾患など、実際の理学療法に関連性の高い疾患を中心に学修し、概要を説明することができる。近年重要性が増している予防医学についての基礎知識の概要説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	循環器分野①心臓の解剖、生理や虚血性心疾患、不整脈などについて学習する。	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
2	循環器分野②	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
3	循環器分野③	①	平野		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
4	代謝・内分泌分野①糖尿病の病態・機序・合併症・治療について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
5	代謝・内分泌分野②肥満・メタボリック症候群を中心に代謝疾患について学ぶ	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
6	代謝・内分泌分野③内分泌疾患の種類と機序について学ぶ(間脳・下垂体、甲状腺、副腎を中心に)	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
7	消化器分野①生体維持の基本となる消化器疾患について学ぶ。	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
8	消化器分野②	①	古田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
9	腎臓器疾患①腎臓機能障害について学習する。	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎臓器疾患②	①	坂		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
11	呼吸器分野①呼吸器機能の基礎と呼吸器疾患全般について学ぶ。	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
12	呼吸器分野②	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
13	呼吸器分野③	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
14	呼吸器分野④	①	高田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
15	血液疾患 血液疾患について学ぶ。	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(90%)、小テスト(10%)						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 内科学 / 鎌倉矩子ほか監修.--第4版--医学書院, 2020年, 978-4-260-04290-1						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考						

授業科目名		担当教員				
整形外科学		西本 裕				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		西本裕(医師)				
授業概要						
運動器の外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法を概説する。						
学修の到達目標						
①骨、関節、靭帯、筋肉、末梢血管、脊髄、末梢神経の損傷、障害について述べるができる。 ②筋、骨格系の感染症、腫瘍、先天異常、発育障害、関節リウマチ、骨粗鬆症を含む代謝疾患、退行性疾患など整形外科的疾患について述べるができる。 ③特に、脊椎固定術、人工関節置換術を中心に生体内人工材料にとって必要な条件、体内での経過について理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動器の外傷、障害 総論	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
2	上肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
3	下肢の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
4	区画症候群、複合性局所疼痛症候群	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
5	体幹の外傷、障害	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
6	脊髄損傷	①	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
7	脊椎退行性疾患、絞扼性神経障害	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
8	関節退行性疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)
9	関節リウマチ	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認(30分)	講義内容の整理と確認(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	骨関節感染症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
11	骨・軟部腫瘍	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
12	先天異常、発育障害、神経筋疾患、側弯症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
13	循環障害、骨端症	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
14	骨粗鬆症を含む代謝疾患	②	西本	講義	解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
15	生体内人工材料	③	西本	講義	第1, 7, 8, 9, 11回の知識の確認 (30分)	講義内容の整理と確認 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
毎回のミニテスト (25%)、定期試験 (75%)						
使用教科書						
標準整形外科学 / 井樋栄二ほか監修.--第14版--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-03880-5						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回、前回のミニテストへの全体的講評。 定期試験については、解答例を掲示する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
神経内科学		木村 暁夫・下畑 享良・山田 恵・吉倉 延亮・竹腰 顕・東田 和博・國枝 顕二郎 (代表教員 木村 暁夫)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 小ゼミ			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		木村暁夫(医師)、下畑享良(医師)、山田恵(医師)、吉倉延亮(医師)、竹腰顕(医師)、東田和博(医師)、國枝顕二郎(医師)				
授業概要						
①神経内科で扱う神経疾患の病態・診断・治療法について学び、理解を深める。 ②個々の神経疾患における障害部位・認められる神経学的異常所見・異常検査所見に関し理解を深める。 ③個々の神経疾患の治療の現状およびリハビリテーションの意義・注意点を理解する。						
学修の到達目標						
①個々の神経疾患の疾患名と病態に関し理解し、診断・治療法に関して具体的に説明できる。 ②個々の神経疾患におけるリハビリテーションの必要性和施行時の注意点を理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	神経変性疾患Ⅰ(パーキンソン病)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
2	神経変性疾患Ⅱ(パーキンソン関連疾患)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
3	神経変性疾患Ⅲ(脊髄小脳変性症)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
4	神経変性疾患Ⅳ(運動ニューロン疾患)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
5	認知症(アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
6	認知症(非アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
7	免疫性神経疾患(重症筋無力症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
8	免疫性神経疾患(多発性硬化症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)
9	末梢神経障害Ⅰ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経障害 II	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
11	筋疾患 I	① ②	國枝		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
12	筋疾患 II	① ②	國枝		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
13	頭部外傷・脊髄損傷	① ②	東田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
14	脳腫瘍	① ②	東田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
15	脳炎・脳症	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
	定期試験 筆記		木村			
評価基準・評価方法						
定期試験 (80%)、授業への取り組み姿勢 (20%) など総合的に判断						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 / 鎌倉矩子ほか編集。--第5版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03817-1						
参考図書						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床のための脳局所解剖学 (中外医学社)</li> <li>・神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療第5版 (医学書院)</li> <li>・全ての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた、考え方とその対応 (羊土社)</li> </ul>						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考	理学療法士 作業療法士国家試験問題解答と解説 (医師薬出版編)					

授業科目名		担当教員				
精神医学		宮地 幸雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		宮地幸雄(臨床心理士)				
授業概要						
精神疾患についての基本的知識並びに精神疾患を罹患した人との基本的な援助方法を学ぶ。						
学修の到達目標						
①精神医学の基礎的な部分について理解を深める。 ②精神疾患の症例をを理解することができる。 ③臨床場面で援助方法の基本が活用できるようになる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人が生きるということについてを考える。	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
2	自殺について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
3	精神医学の歴史について	①			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
4	こころの発達と防衛機制について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
5	臨床心理検査について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
6	よくみられる精神症状についてーその1	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
7	よくみられる精神症状についてーその2	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
8	統合失調症についてーその1	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
9	統合失調症についてーその2	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感情障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
11	心因性精神障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
12	知的障害・発達障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
13	心理療法について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
14	チームアプローチについて	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
15	医療従事者の姿勢について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験(100%)で評価する						
使用教科書						
精神医学テキスト－精神障害の理解と治療のために / 上島国利ほか. --改訂第4版--南江堂, 2017, ISBN978-4-524-25942-7						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	随時質問を受け付け回答及びコメントをする。					
備考	講師は臨床心理士。非医師であるが、精神科病院での事例を提示し臨床現場の話をしてみたい。					

授業科目名		担当教員				
小児科学		近藤 直実・近藤 富雄・堀田 亮 (代表教員 近藤 直実)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義 小ゼミ			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		近藤直実(医師)、近藤富雄(医師)、堀田亮(臨床心理士)				
授業概要						
小児はただ単に体の小さな成人ではなく、つねに成長発達をする存在である。罹患しやすい疾患についても年齢によって異なる。このような小児の特徴を理解することが重要である。						
学修の到達目標						
①胎児・新生児期および小児特有の生理・病態生理を理解し、説明することができる。 ②胎児から子供の誕生、そして成長し次世代の子供を持つまでをひとつのLife cycle と捉え、この成長過程における生理と病態生理を理解し、説明することができる。 ③子供のCommon Disease ,特有な疾患を理解し説明することができる。すなわち、子供がよく罹患する疾患、頻度は低い子供特有な疾患について病態・診断・治療、予防法を学ぶ。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	小児科概論 成長と発達	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
2	成長と発達	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
3	新生児と疾患	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
4	先天異常 遺伝病	① ②	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
5	神経、筋疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
6	神経、筋疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
7	循環器疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
8	消化器疾患、内分泌疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
9	血液疾患、腫瘍性疾患	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	腎、泌尿器疾患、目、耳の疾患 等	③	近藤(直)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
11	呼吸器疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
12	感染症	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
13	アレルギー免疫疾患	③	近藤(富)		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
14	こころの病気、障害	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
15	発達、心理検査	③	堀田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(120分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(80%)、小テスト(20%)						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学 / 奈良 勲ほか監修.--第5版(3刷)--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03434-0						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考	資料などにて補足説明を行う。					

授業科目名		担当教員				
画像診断学		辻 圭一・河合 克尚・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎 (代表教員 辻 圭一)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		辻圭一(理学療法士)・河合克尚(理学療法士)・大場かおり(理学療法士)・石田裕保(理学療法士)・藤橋雄一郎(理学療法士)				
授業概要						
理学療法の評価において、画像から症状を推論することは重要である。評価に用いられる画像はレントゲン写真、CT、MRI、MRAなどである。これらの患者情報を元に、治療に必要な検査や症状の予後予測が可能となる。本講義では、画像を読み取り、患者の状態を把握できる力を養う。						
学修の到達目標						
①画像の種類を知り、特性を理解できる ②疾病ごとの画像の特徴を覚えらるる ③画像を元に症状を把握できる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中枢神経画像の種類と特徴 (CT、SPECT)	①	藤橋	講義	教科書の第1章を確認しておくこと。(30分)	画像の種類やその特徴について復習すること。(30分)
2	中枢神経画像の種類と特徴 (MRI)	①	藤橋	講義	教科書の第1章を確認しておくこと。(30分)	画像の種類やその特徴について復習すること。(30分)
3	健常者の脳画像 (CT、MRI)	① ②	藤橋	講義	脳解剖を確認しておくこと。(30分)	脳解剖と健常者脳画像について復習すること。(30分)
4	中枢神経疾患の脳画像 脳卒中 (脳出血 脳梗塞 クモ膜下出血)	① ②	大場	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)
5	中枢神経疾患の脳画像 頭部外傷・変性疾患	① ②	大場	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)
6	脳画像と症状の関係について：画像の特徴を捉え症状を考える。	③	大場	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)
7	X線の基礎知識と正常の脊椎	①	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)
8	脊椎疾患	② ③	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)
9	上肢疾患	② ③	辻	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。(30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	下肢疾患（股関節、大腿）	② ③	石田	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (30分)
11	下肢疾患（下腿、足関節）	② ③	石田	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (30分)
12	関節リウマチと骨腫瘍	② ③	石田	講義	教科書の該当の章を確認しておくこと。 (30分)	講義で扱った名称や数値を覚えること。 (30分)
13	胸部X線・胸部CTの診かた	①	河合	講義	教科書の第1章に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
14	呼吸器疾患（COPD、肺炎）	② ③	河合	講義	教科書の第5章に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
15	循環器疾患（虚血性心疾患、心不全）	② ③	河合	講義	教科書の第5章に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
	期末試験					
評価基準・評価方法						
期末試験、小テスト						
使用教科書						
PT・OTのための画像のみかた（第2版） / 山下敏彦・下濱俊.--金原出版株式会社, 978-4-307-75057-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	期末試験の方式、準備の方法、試験範囲については第1回に連絡します。					
備考	幅広い知識を求める講義ですので、個人的に必要と思われる他科目の教科書も持参するように。					

授業科目名		担当教員				
薬理学		大津 航				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		大津 航(獣医師)				
授業概要						
薬物による人間の反応や作用機序の理解、投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて、薬物の副作用やその多剤服用(ポリファーマシー)症状についても学ぶ。これらを理解することにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。各授業の最初には、前回の授業内容を復習する時間(質問形式)を設ける。各授業の最後には、その日の授業のまとめを行い、重要なポイントを確認する。						
学修の到達目標						
①薬物の使用目的や薬物の作用機序、体内動態について理解できる。 ②薬物の取扱い、投与方法、副作用について理解できる。 ③各種疾患に対する薬物療法について理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	薬理学総論	①	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(60分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(60分)
2	薬理学各論 抗感染症薬	① ②	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
3	薬理学各論 抗がん薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
4	薬理学各論 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
5	薬理学各論 末梢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
6	薬理学各論 中枢神経に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
7	薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物1	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
8	薬理学各論 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	① ② ③	大津	講義	指定教科書の該当ページに目を通す。(90分)	授業の内容について説明できるようにまとめる。教科書にある設問を解いてみる。(150分)
	定期試験(筆記)					

評価基準・評価方法	
<p>期末試験の成績（100%）及び授業態度等を総合的に判断して評価する。</p>	
使用教科書	
<p>系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 / 吉岡充弘ほか. --第14版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03184-4</p>	
参考図書	
<p>はじめの一步の薬理学 第2版 / 石井邦雄、坂本謙司編. 羊土社, 2021年, ISBN978-4-7581-2094-4  リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理 / 宮越浩一編. 羊土社, 2019年, ISBN978-4-7581-0243-8</p>	
<p>課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法</p>	<p>質問は授業中及び授業の終わりに常時受け付けている。また授業の最初に前回の復習を行っているので、その際に質問も受け付けている。</p>
<p>備考</p>	

授業科目名		担当教員				
多職種連携演習 (IPE)		田島 嘉人・亀山 咲子・他 (代表教員 田島 嘉人)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義 仏コバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授業概要						
地域包括ケアを実践する上で、医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。この授業では、専門職間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学科専攻を越えたグループワーク演習を通じて、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。						
学修の到達目標						
①多職種連携の意義について説明できる。 ②他の職種の役割を説明できる。 ③保健・医療・福祉における多職種連携の在り方を具体的に説明できる。 ④様々な職種の人々との共同を通して、保健・医療・福祉の諸課題に対処できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 多職種連携とは	①	田島 亀山	講義	配布資料にて事前学習(120分)	配布資料にてレポート(120分)
2	多職種連携の意義 医療・福祉の中での理学療法士の役割 チームビルディング	① ②	田島 亀山	講義	配布資料にて事前学習(120分)	配布資料にてレポート(120分)
3	多職種の役割を知る(1)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
4	多職種の役割を知る(2)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
5	多職種の役割を知る(3)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
6	多職種の役割を知る(4)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
7	多職種の役割を知る(5)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
8	多職種の役割を知る(6)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)
9	多職種の役割を知る(7)	②	医療 職教員	講義	配布資料にて事前学習(120分)	今回学んだ職種について自己学習(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	多職種連携演習 (1)	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
11	多職種連携演習 (2)	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
12	多職種連携演習 (3)	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
13	多職種連携演習 (4)	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
14	多職種連携演習 (5)	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
15	多職種連携で必要とされる知識・技術の整理	③ ④	田島 亀山	演習	配布資料にて事前学習 (120分)	配布資料にてレポート (120分)
	課題					
評価基準・評価方法						
グループディスカッション参加度 (50%)、レポート (期限提出) (50%)						
使用教科書						
参考図書						
配布資料						
	各講義の講義終了時に全体に向けてフィードバックを行う。					
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考						

授業科目名		担当教員				
理学療法研究方法論		長谷部 武久				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久(理学療法士)				
授業概要						
<p>選択科目「卒業研究」を見据えて、研究計画の立案及び研究を進める上で必要となる基礎的知識について学ぶ。研究計画及び方法、研究における客観性・信頼性・妥当性の意味、計測値の意味と統計学の重要性など、研究基本概念について理解する。PBL方式によるグループ学習、プレゼンテーション等を通して自己学習能力およびコミュニケーション能力を養う。また、研究を行う上で重要である文献検索については、タブレット端末やPCの使用を推奨する。</p>						
学修の到達目標						
<p>①研究を行う意義、そして研究デザインについて述べるができる          ②論文・文献を検索することができる          ③研究計画を立案できる          ④自己学習能力およびコミュニケーション能力を身につける</p>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、研究を行う意味や科学的根拠に基づいた医療について	①		講義	シラバスを熟読すること(30分)	科学的根拠に基づいた医療について説明できること(30分)
2	論文の種類と原著論文	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	原著論文の種類が識別できること(30分)
3	論文・文献検索の方法①	② ④		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	インターネットを用いて論文を検索してみる(30分)
4	論文・文献検索の方法②	② ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	興味のある論文を抽出してみる(30分)
5	原著論文の構成	① ④		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	選択した論文を読んでその構成が理解できること(30分)
6	質の高い論文と科学的根拠に基づく理学療法の実践①	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	RCTや系統的総説、ガイドラインの違いが理解できる(30分)
7	質の高い論文と科学的根拠に基づく理学療法の実践②	① ② ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	論文を読んで問題点の定式化ができる(30分)
8	研究デザイン①	①		講義	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	研究デザインに基づいた分類を復習する(30分)
9	研究デザイン②	① ② ③ ④		演習	配布資料の当該箇所に目を通すこと(30分)	論文を抽出し分類ができる(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	論文の妥当性や信頼性①	① ③		講義	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	バイアスが説明できる (30分)
11	論文の妥当性や信頼性②	① ② ③ ④		演習	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	バイアスの有無が判断できる (30分)
12	研究で用いられる数値や統計手法	① ③		講義	配布資料の当該箇所 に目を通すこと (30分)	数値の意味を理解しよく使われる統計手法の意義について説明できる (30分)
13	研究計画の立案①	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
14	研究計画の立案②	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
15	研究計画の立案③	① ② ③ ④		演習	研究デザインと文献 検索について復習すること (30分)	グループ演習で知り得た知識を整理すること (30分)
評価基準・評価方法						
小テスト90% レポート10%						
使用教科書						
資料を配布する 原著論文を紹介する						
参考図書						
内山靖 編集 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版 医学書院 日本理学療法士協会 理学療法ガイドライン(第1版)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、理解度確認の小テストを実施直後に解答の解説を行う。 課題レポートはメールにて提出。提出後、速やかにメールにて返却する。					
備考	インターネットに接続できる携帯電話、タブレット端末、PC等のいずれかを持参すること。 E-mail; t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
理学療法特論		河合 克尚・辻 圭一・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎 (代表教員 河合 克尚)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	1単位(30時間)		演習 小グループ		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚(理学療法士)・辻圭一(理学療法士)・大場かおり(理学療法士)・石田裕保(理学療法士)・藤橋雄一郎(理学療法士)				
授業概要						
理学療法特論では、専門基礎および専門知識に関する各科目で習得した知識の定着を図り、これらの知識を応用して理学療法と関連付けて考える。そのために課題を提示し、グループワークを通して専門基礎および専門知識の理解を深める。また、重要な用語についてはペアシェア学習を通して知識の定着を図る。						
学修の到達目標						
①疾患に即した理学療法評価と理学療法の基礎知識を説明できる。 ②内部機能障害に対する理学療法を説明できる。 ③運動療法(主に基本介入手段)と物理療法を説明できる。 ④精神障害に対する検査と治療を説明できる。 ⑤義肢装具の基礎と疾患に即した義肢装具療法を説明できる。 ⑥ADL評価と指導、生活環境支援について説明できる。 ⑦脳・神経機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑧骨・関節機能障害に対する理学療法を説明できる。 ⑨小児・発達機能障害に対する理学療法を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法評価学	①	河合	講義	理学療法評価について復習しておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
2	基礎理学療法学	①	河合	講義	動作や運動に対する生体反応について復習しておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
3	内部機能障害学	②	河合	講義	内部障害の理学療法について復習しておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
4	運動療法(基本介入手段)	③	大場	講義	基本的な介入方法について確認しておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
5	物理療法学	③	大場	講義	適応と禁忌、生理学的作用について確認しておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
6	精神医学、臨床心理学	④	大場	講義	見慣れない単語は意味を調べておくこと(30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
7	義肢装具学	⑤	石田	講義	各種義肢装具について学習しておくこと(60分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
8	日常生活動作学	⑥	石田	講義	BIやFIMなど日常生活を評価する検査について学習しておくこと(60分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)
9	生活環境論	⑥	石田	講義	車椅子の採寸やスロープなどについて学習しておくこと(60分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋	講義	脳血管障害の理学療法について確認しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
11	脳・神経機能障害学	⑦	藤橋	講義	脊髄損傷の理学療法について確認しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
12	神経筋系障害学	⑦	藤橋	講義	パーキンソン病、多発性硬化症などの理学療法について確認しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
13	運動機能学	⑧	辻	講義	臨床運動学、運動生理学について復習しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
14	骨・関節機能障害学	⑧	辻	講義	整形外科疾患について復習しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
15	発達機能障害学	⑨	辻	講義	正常発達や脳性麻痺について復習しておくこと (30分)	時間内に取り組みなかった課題を学習すること (60分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、定期試験 (50%)、小テスト (50%) とする。						
使用教科書						
課題プリントを配布する						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	学習課題に対するフィードバック (解説) は授業内に行う。					
備考	授業ではグループワークを行います。グループ内で協同して取り組んで下さい。質問等がある場合は、授業中やオフィスアワー等を活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
卒業研究		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	3年 前学期	2単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)				
授業概要						
卒業研究では、これまでに履修した知識と技術を基に研究課題を決め、各種研究手法に沿った測定や調査を実施、分析、検証を加え、教員の指導の下研究論文を完成させる。論文作成に至るまでの調査の方法、手続き、実施法、結果の統計処理、文献検索の方法等を指導する。グループワークやディスカッションを通じて、研究者および高度な臨床実践者としての基本的能力を修得することを目指す。						
学修の到達目標						
①研究計画の立案、実施し、論文作成まで行うことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション(卒業研究の概要、研究活動の意義、論文の書き方について)	①	曾田 大場 田島			研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
2	統計について、文献検索について、研究に必要な機器について	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
3	研究テーマについて	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
4	研究テーマについて	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
5	予備実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
6	予備実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
7	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
8	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)
9	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成(120分)	研究計画の立案、実施、論文作成(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	実験または文献収集	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
11	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
12	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
13	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
14	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (120分)
15	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
16	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
17	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
18	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
19	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
20	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
21	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
22	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)
23	論文作成	①	曾田 大場 田島		研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)	研究計画の立案、実施、論文作成 (180分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	論文作成提出					
評価基準・評価方法						
論文の完成度（100%）						
使用教科書						
なし /						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	論文作成時に随時指導					
備考	オフィスアワー 曾田 月曜日 12:15～13:15 大場 火曜日 16:30～17:30 田島 水曜日 16:30～17:30					

授業科目名		担当教員				
クリニカルリーズニング		堀 信宏・曾田 直樹・亀山 咲子 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	3年 前学期	2単位(30時間)	演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)、曾田直樹(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授業概要						
理学療法を実施するに当たり患者の持つ障害を把握し、問題点を明らかにする事は重要である。その為の情報収集手段として評価がある。評価は障害を持つ前の状況や活動歴、スポーツ歴などが影響し、退院後の生活に影響を及ぼす。そのような視点に基づきゴールの設定を行い、治療プラン、住宅改造、家族指導などの必要性が見えてくる。本講義では正確な測定法の実施から実際のプランを導く為の考え方・視点を学習する。内部疾患、中枢疾患、整形疾患の3系統に分けて学ぶ。						
学修の到達目標						
①症例検討を通じて様々な問題解決へ導くための理学療法診断が行えるようにする。 ②設問を解釈しながら臨床に必要な知識を整理する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	下肢疾患の症例に対して	① ②	曾田	講義	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(120分)	授業内容の復習をすること(120分)
2	下肢疾患の症例に対して	① ②	曾田	演習	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(120分)	授業内容の復習をすること(120分)
3	上肢疾患の症例に対して	① ②	曾田	講義	上肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(120分)	授業内容の復習をすること(120分)
4	上肢疾患の症例に対して	① ②	曾田	演習	上肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(120分)	授業内容の復習をすること(120分)
5	その他の整形外科疾患の症例に対して	① ②	曾田	講義	骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(120分)	授業内容の復習をすること(120分)
6	運動学習を理解する	②	堀	講義	運動学総論の資料と教科書を再確認しておきましょう(120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう(120分)
7	頭部外傷の症例検討	① ②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう(120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう(120分)
8	Pusher症候群と半側空間無視の症例検討	① ②	堀	講義	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう(120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう(120分)
9	パーキンソン病の症例検討	① ②	堀	演習	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう(120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳血管障害の症例検討	① ②	堀	演習	脳神経機能障害学の資料と教科書を再確認しておきましょう (120分)	講義内で解いた問題を理解しておきましょう (120分)
11	関節可動域について	① ②	曾田	演習	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
12	筋力増強訓練について	① ②	曾田	演習	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
13	整形外科疾患の評価・治療について	① ②	曾田	演習	下肢の解剖をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
14	起き上がり困難な脳血管症例の検討1	① ②	堀	演習	起き上がり動作の復習をしておく (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
15	起き上がり困難な脳血管症例の検討2	① ②	堀	演習	起き上がり動作の復習をしておく (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
16	脳血管障害の入浴、トイレ動作検討	① ②	堀	演習	入浴・トイレ動作の復習をしておく (120分)	授業内容の復習をすること (120分)
17	リスク管理① 感染対策	① ②	亀山	講義	リスク管理①の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業の内容を復習すること (120分)
18	リスク管理② 感染対策	① ②	亀山	演習	リスク管理②の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業内容の復習と実技練習すること (120分)
19	リスク管理③ 理学療法におけるリスク管理	① ②	亀山	講義	リスク管理③の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業の内容を復習すること (120分)
20	リスク管理④ 理学療法におけるリスク管理	① ②	亀山	演習	リスク管理④の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業内容の復習と実技練習すること (120分)
21	生活習慣病の考え方	① ②	亀山	演習	生活習慣病の考え方の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業内容の復習と実技練習すること (120分)
22	心疾患	① ②	亀山	演習	心疾患の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業内容の復習と実技練習すること (120分)
23	呼吸器疾患	① ②	亀山	演習	呼吸器疾患の資料に目を通しておこくこと (120分)	授業内容の復習と実技練習すること (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験100%（整形，神経疾患，内部疾患分野で合算）．授業態度を加味する．						
使用教科書						
各分野ごとに，資料を配布する						
参考図書						
基本編/実践編 ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版（文光堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	授業内で実施する．					
備考	講義内容によってはディスカッションを行う．積極的な参加を期待する．					

授業科目名		担当教員				
理学療法管理学 I		岸本 泰樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		岸本 泰樹 (理学療法士)				
授業概要						
理学療法管理学 I では、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。さらに、その管理業務に必要な多職種連携の重要性や法制度などを理解し、業務の中でどのように実践するかを考察・検討する。						
学修の到達目標						
①理学療法管理学の概要について理解する ②医療機関の分類と組織の能力について理解する ③リハビリテーションに関わる専門職と事務職の役割、チーム医療の実例を学びチームケアを理解する ④社会保障の構成要素と役割を学ぶ ⑤理学療法業務に必要な医療保険制度の概要を理解する ⑥理学療法業務に必要な介護保険制度の概要を理解する ⑦診療報酬・介護報酬とそのコスト、背景を学びリハビリテーション分野における収益構造を理解する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法管理学総論	①	岸本	講義	教科書 p 1～p 10に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
2	病院の分類と組織	②	岸本	講義	教科書 p 11～p 22に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
3	専門職とチームケア	③	岸本	講義	教科書 p 23～p 34に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
4	社会保障のしくみ	④	岸本	講義	教科書 p 35～p 44に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
5	医療保険制度	⑤	岸本	講義	教科書 p 45～p 54に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
6	介護保険制度 I	⑥	岸本	講義	教科書 p 55～p 64に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
7	介護保険制度 II	⑥	岸本	講義	教科書 p 55～p 64に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
8	診療・介護報酬と収益構造	⑦	岸本	講義	教科書 p 65～p 76に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)

評価基準・評価方法	
レポートによって評価する（100%）	
使用教科書	
「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学」 / 石川朗・長野聖--中山書店, 978-4-521-74813-9	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	最終授業時に全体にむけてフィードバックを行う
備考	本講義では理学療法のスキルとは別に、医療職を生業とする上で身につけるべき様々な知識を学ぶ。医療人としての興味の視点が広がることを期待する。

授業科目名		担当教員				
理学療法管理学Ⅱ		岸本 泰樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		岸本 泰樹(理学療法士)				
授業概要						
理学療法士は、病院をはじめ老人施設等の各種サービス機関で働いている。組織のなかで働くためには、所属部門の管理運営に携わり、責任をもった対応が求められる。理学療法管理学Ⅱでは、組織人としての役割を全うするために必要な業務管理・リスクマネジメント・理学療法教育など、実践をイメージしながら学習する。						
学修の到達目標						
①理学療法士が携わる保健・医療の連携と、介護・福祉の関わりについて理解する ②業務管理の視点から理学療法業務の概要を理解する ③臨床業務に不可欠な情報収集、記録の意義と管理、コミュニケーション技術について理解する ④医療安全とリスク管理の概要について理解する ⑤医療・介護施設における感染管理について理解する ⑥理学療法士として必要な患者の権利擁護と職業倫理について理解する ⑦臨床実習から国家試験、生涯学習に至る教育体制について理解する ⑧医療・介護と政治・政策との関係を学び、これらが理学療法士の報酬や給与に寄与することを理解する						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	保健・医療・介護・福祉の連携	①	岸本	講義	教科書 p 77～p 88に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
2	業務管理	②	岸本	講義	教科書 p 89～p 98に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
3	情報管理	③	岸本	講義	教科書 p 99～p 108に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
4	リスク管理	④	岸本	講義	教科書 p 109～p 118に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
5	感染症管理	⑤	岸本	講義	教科書 p 119～p 128に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
6	権利擁護と職業倫理	⑥	岸本	講義	教科書 p 129～p 138に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
7	教育管理	⑦	岸本	講義	教科書 p 139～p 148に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)
8	理学療法士の政治・政策への関与	⑧	岸本	講義	教科書 p 149～p 158に目を通しておく(120分)	授業内容を復習すること(120分)

評価基準・評価方法	
レポートによって評価する（100%）	
使用教科書	
「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学」 / 石川朗・長野聖--中山書店, 978-4-521-74813-9	
参考図書	
適宜紹介する	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	最終授業時に全体にむけてフィードバックを行う
備考	本講義では理学療法のスキルとは別に、医療職を生業とする上で身につけるべき様々な知識を学ぶ。医療人としての興味の視点が広がることを期待する。

授業科目名		担当教員				
運動器系検査法		曾田 直樹・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 小グループ			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授業概要						
人間の生活は基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その機能自体が障害されることは動作・活動の制限を生じ、社会生活が危ぶまれ得る事につながる。本講義はそれら運動機能の働きを評価する。具体的には、関節可動域測定、形態測定(四肢長、周径)、感覚検査(体性感覚、特殊感覚、疼痛)などである。各々の検査法の意義・原理を理解し、検査技術を修得する。疾患における必要な検査項目をグループディスカッションにて列挙し実施する。						
学修の到達目標						
①四肢の関節可動域の目的を理解し測定することができる。 ②四肢の形態測定の目的を理解し行うことができる。 ③感覚検査の目的を理解し行うことができる。 ④整形外科的検査の目的を理解し行うことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	関節可動域：目的	①	曾田 藤橋 植木	講義 演習	教科書P65-69にある、関節可動域測定の目的や留意事項を一読しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
2	関節可動域：肩関節屈曲・伸展・内転・外転	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
3	関節可動域：肩関節内旋・外旋・水平内転・水平外転	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
4	関節可動域：肘関節屈曲・伸展、手関節掌屈・背屈・橈屈・尺屈	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
5	関節可動域：股関節屈曲・伸展・外転・内転・内旋・外旋	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
6	関節可動域：膝関節屈曲・伸展	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
7	関節可動域：足関節背屈・底屈、内反・外反	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
8	関節可動域：体幹、別法	①	曾田 藤橋 植木	演習	授業計画にある関節可動域測定に必要な基本・移動軸・参考可動域等を確認しましょう(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
9	形態測定：目的、方法を理解し、実技を行う。	②	植木 曾田 藤橋	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	配布された講義資料の内容を確認すること(60分)。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感覚検査：上行性伝導路の解剖・生理学・検査の目的を理解する。	③	藤橋	講義	上行性神経路についての、解剖生理を再確認しましょう(60分)。	上行性神経路の役割り、経路について説明できるようにしましょう(60分)。
11	感覚検査：表在感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。	③	辻	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	配布された講義資料の内容を確認すること(60分)。
12	感覚検査：深部感覚および複合感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。	③	辻	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	配布された講義資料の内容を確認すること(60分)。
13	整形外科検査：体幹・上肢疾患検査	④	曾田 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
14	整形外科検査：下肢疾患検査	④	曾田 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
15	疾患別検査法：疾患を想定し、必要な検査を列挙し実施する	① ② ③ ④	曾田 辻 藤橋 植木	演習	教科書の該当の章を確認しておくこと(60分)。	講義内容の再確認を行い、技術の向上に努めましょう(60分)。
	定期試験(筆記及び実技)					
評価基準・評価方法						
<p>評価基準：知識、技術、理解、学修態度、意欲を重視する。          評価方法：期末テスト(筆記・実技)70%、小テスト20%、参加度10%。</p>						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正/江口 勝彦.--第6版補訂版--金原出版, 2022年, 978-4-307-75068-4						
参考図書						
	講義内で解説					
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考	オフィスアワー	曾田	月曜日	12:15~13:15		
		藤橋	月曜日	16:30~17:30		
		辻	月曜日	16:30~17:30		
		植木	火曜日	16:30~17:30		

授業科目名		担当教員				
神経系検査法		河合 克尚・辻 圭一・石田 裕保・亀山 咲子 (代表教員 河合 克尚)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏ニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚(理学療法士)・辻圭一(理学療法士)・石田裕保(理学療法士)・亀山咲子(理学療法士)				
授業概要						
人間の生活は、基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その動作は、神経系の働きによって調整・制御されている。本科目では、それら神経系の働きを評価する方法を学ぶ。具体的には、徒手筋力検査、筋緊張、反射、脳神経、高次脳機能に関する検査法を学ぶ。そして、学生同士(健常者)での演習を通して検査技術の理解を深める。						
学修の到達目標						
①徒手筋力検査法の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 ②脳神経検査および高次脳機能検査の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 ③筋緊張と反射検査の意義を理解し、検査技術を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	徒手筋力検査法の意義・原理、徒手筋力検査の測定方法：肘関節屈曲・伸展	①	河合 辻 亀山	講義 演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
2	徒手筋力検査の測定方法：肩関節屈曲・外転・伸展	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
3	徒手筋力検査の測定方法：肩関節外旋・内旋・水平内転・水平外転	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
4	徒手筋力検査の測定方法：前腕回内・回外、手関節背屈・掌屈	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
5	徒手筋力検査の測定方法：膝関節屈曲・伸展、股関節屈曲・伸展	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
6	徒手筋力検査の測定方法：股関節外転・内転・外旋・内旋	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
7	徒手筋力検査の測定方法：足関節背屈・底屈	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
8	徒手筋力検査の測定方法：体幹屈曲・回旋、頭頸部	①	河合 辻 亀山	演習	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
9	徒手筋力検査の測定方法：肩甲骨 徒手筋力検査の演習問題	①	河合 辻 亀山	演習 講義	教科書1の該当ページに目を通しておくこと(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳神経の診かた：脳神経検査法の方法 p.105-126 (教科書2)	②	辻	演習	脳神経の各機能を復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
11	高次脳機能の診かた：失認と失行に対する検査方法 p.255-262 (教科書2)	②	辻	演習	失認、失行がどのような症状か復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
12	高次脳機能の診かた：認知症、意識障害に対する検査方法 p.277-281 (教科書2)	②	辻	演習	認知症の症状について復習しておくこと (30分)	配布された講義資料のうち、重要項目を覚えておくこと (30分)
13	筋緊張の診かた：協調性検査、筋トーンス検査 p.160-178 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
14	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 p.113-125 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
15	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 p.145-160 (教科書3)	③	石田	演習	教科書の該当ページに目を通しておくこと (30分)	授業で行った検査測定を理解し、実技を習得するよう復習をすること (30分)
	定期試験 (実技)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、小テスト (40%)、定期試験 (実技) (60%) とする。						
使用教科書						
新・徒手筋力検査法 / Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著.--原著第10版 (DVD付) --協同医書出版社, 2020年, 978-4-7639-0041-8 ベッドサイドの神経の診かた / 田崎義昭.--第18版--南山堂, 2016, 978-4-525-24798-0 理学療法評価学 / 松澤 正/江口 勝彦.--第6版補訂版--金原出版, 2022年, 978-4-307-75068-4						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	授業内で提示する課題に対しては、その都度解説を行う。					
備考	講義と実技を行います。実技の際は、動きやすい服装で臨んで下さい。					

授業科目名		担当教員				
動作・画像解析学		堀 信宏・石田 裕保 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)、石田裕保(理学療法士)				
授業概要						
本講義では姿勢分析, バランス検査, 動作分析, 歩行分析などグループワークを実施する。姿勢, 動作, 歩行の分析は理学療法評価の一手段として位置づけられている。その為, 運動学的視点で人における動きを観察し分析できるようになることが目的である。また, 運動器疾患や中枢疾患の代表的なレントゲン, CT, MRI画像の見方や解説を教授する。						
学修の到達目標						
①筋収縮と身体活動の力学的結びつきを理解する。バランス能力評価方法を理解・実施できるようになること。(堀担当分)						
②基本動作の成り立ちを理解することが出来るようになること。X-pやMRI画像を診ることが出来るようになること。(石田担当分)						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動学的動作解析: 固定筋と動筋, 長座位における筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだ筋活動について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
2	運動学的動作解析: 筋活動とモーメント, スクワット動作における筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだモーメントと支持基底面, 重心について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
3	運動学的動作解析: 立ち上がり, 介助時の筋活動	①	堀	講義	運動学総論で学んだモーメントと支持基底面, 重心について再確認をしておいてください(120分)	講義内で解いた問題を理解できるようにまとめておきましょう(120分)
4	バランス機能の見方: TUG/FRT/姿勢反射/BBS	①	堀	実技	運動学総論で学んだ支持基底面, 重心, バランスについて再確認をしておいてください(120分)	各種バランス評価法を整理しておいてください(120分)
5	CT/MRIの見方: 整形疾患のレントゲンの見方	②	石田	講義	インターネット等でCT/MRI画像を見ておいてください(120分)	本日行った講義に関する脳の機能・部位についてまとめてください(120分)
6	観察による動作分析の仕方: 基礎	②	石田	講義	本日行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本日行ったことを復習し, 簡潔にまとめてください(120分)
7	観察による動作解析の仕方: レポートの書き方とデモンストレーション	②	石田	講義	本日行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本日行ったことを復習し, 簡潔にまとめてください(120分)
8	「寝返り」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本日行ったことを復習し, まとめてください(120分)
9	「寝返り」触診・レポート作成	②	石田	実技	本日行う予定の教科書の範囲を一読して下さい(120分)	本日行ったことを復習し, まとめてください(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	「起き上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
11	「起き上がり」触診・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
12	「起き上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
13	「立ち上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
14	「立ち上がり」触診・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
15	「立ち上がり」動作分析・レポート作成	②	石田	実技	本日举行予定の教科書の範囲を一読して下さい (120分)	本日举行ったことを復習し、まとめてください (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
課題レポート (50%) , 筆記試験 (50%) を総合的に判断する.						
使用教科書						
運動・からだ図解 動作分析の基本 / 石井慎一郎 監修.--マイナビ出版, 978-4-8399-7118-2 資料を配布する.						
参考図書						
動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (Medical view) , 臨床評価指標入門 適応と解釈のポイント (協同医書) , 観察による歩行分析 (医学書院) , 筋骨格系のキネシオロジー (医歯薬出版株式会社)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートを添削し、共通する訂正・修正箇所等をまとめて講義で伝達する					
備考	動作分析は臨床実習(卒後は臨床)で日常的に必要なとされる評価能力です。そのことを意識して取り組んでください。専門職としての「眼」を養いましょう。					

授業科目名		担当教員				
理学療法評価学演習		河合 克尚・大場 かおり・長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・田島 嘉人・藤橋 雄一郎・植木 努・辻 圭一・石田 裕保・亀山 咲子・澤村 彰吾 (代表教員 河合 克尚)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(60時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚(理学療法士)・大場かおり(理学療法士)・長谷部武久(理学療法士)・曾田直樹(理学療法士)・堀信宏(理学療法士)・田島嘉人(理学療法士)・藤橋雄一郎(理学療法士)・植木努(理学療法士)・辻圭一(理学療法士)・石田裕保(理学療法士)・亀山咲子(理学療法士)・澤村彰吾(理学療法士)				
授業概要						
理学療法評価学演習では、前学期で習得した各評価(検査)項目を中心に、症例に即した評価(検査)の実技練習を行う。その成果を客観的臨床能力試験(OSCE)を通して確認し、理学療法評価(検査)に関する知識・技術の定着と向上に努める。また、グループワークやディスカッションを通して、評価(検査)技術だけでなく、コミュニケーション技術や課題解決能力を養う。						
学修の到達目標						
①健康者に対して基本的な理学療法評価(検査)が実施できる。 ②疾患に即した評価(検査)を列挙し、その目的や意義を説明できる。 ③コミュニケーション能力の向上を図る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	理学療法評価について(総論)	①	河合大場	講義	教科書1の「総論」「各論第1章」に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
2	運動器疾患に対する検査測定・動作介助	① ② ③	担当教員	演習	提示された症例情報をもとに必要な検査項目を考える(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
3	運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	運動器系検査法の授業で学んだ検査方法を復習すること(30分)	授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
4	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
5	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
6	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
7	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
8	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)
9	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること(30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
11	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
12	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
13	コミュニケーション演習、運動器疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、運動器系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
14	OSCE (運動器系検査)	① ② ③	担当 教員	演習	第2回～13回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
15	OSCE (運動器系検査)	① ② ③	担当 教員	演習	第2回～13回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
16	中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	提示された症例情報をもとに必要な検査項目を考える (30分)	授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
17	中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	神経系検査法の復習をすること (30分)	授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
18	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
19	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
20	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
21	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
22	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
23	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
25	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
26	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
27	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
28	コミュニケーション演習、中枢神経疾患に対する検査測定と動作介助	① ② ③	担当 教員	演習	コミュニケーション演習の準備、神経系検査法の復習をすること (30分)	コミュニケーション演習の振り返り、授業で行った検査測定の復習をすること (30分)
29	OSCE (神経系検査)	① ② ③	担当 教員	演習	第16回～28回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
30	OSCE (神経系検査)	① ② ③	担当 教員	演習	第16回～28回の授業で行った検査測定の復習をすること (30分)	フィードバックされた内容について再考すること (30分)
評価基準・評価方法						
評価方法は、グループ活動への参加度 (20%)、レポート (20%)、OSCE (60%) とする。						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正/江口 勝彦. --第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7 標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集. --第6版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8						
参考図書						
ベッドサイドの神経の診かた (田崎義昭 著、南山堂)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	演習課題に対するフィードバック (OSCEのフィードバック含む) は、授業内で担当教員から行います。					
備考	実技演習が中心の科目です。臨床実習に臨む際と同様、服装や身だしなみを整えるようにして下さい。 事前学習の「コミュニケーション演習の準備」については、第1回目の講義で説明します。 質問等がある場合は、演習中や授業終了後、オフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
高齢者機能障害学		堀 信宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)				
授業概要						
高齢者機能障害学では加齢に伴う様々な身体機能・能力低下や認知症、老年期症候群、癌などの疾患について学ぶ。更に転倒予防や運動療法、リスク管理など、実際の臨床に結び付く内容を教授する。その他にも家族に対する指導、高齢者に対する接し方、死生観などディスカッション・発表を通じて修得する。						
学修の到達目標						
①高齢者の身体的特徴、および複数の疾患を理解する。 ②高齢者の身体特性と疾患を考慮し、在宅生活を目指す理学療法についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指す。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ライフステージと高齢者像、高齢社会の課題と展望	①			テキストのp.1-3, 186-187を読んでおきましょう(120分)	高齢者の定義, 内科的特徴を整理しましょう(120分)
2	加齢に伴う心身機能の変化: 高齢者の身体的特徴	①			テキストのp.15-20を読んでおきましょう(120分)	加齢に伴う身体的変化を整理しましょう(120分)
3	加齢に伴う心身機能の変化: 高齢者の認知・精神的特徴, 認知症	①			テキストのp.21-25を読んでおきましょう(120分)	脳の機能解剖と認知症状を照らし合わせて整理しましょう(120分)
4	加齢に伴う心身機能の変化: 高齢者の認知・精神的特徴 対応について	① ②			テキストのp.21-25, 63-65を読んでおきましょう(120分)	認知症を抱えた高齢者に対する接し方を考察しましょう(120分)
5	老年症候群: フレイル, 低栄養, 寝たきり(廃用症候群)	①			テキストのp.27-30, 55-57を読んでおきましょう(120分)	高齢者に多発する疾患を整理しましょう(120分)
6	老年症候群: 転倒	①			テキストのp.35-36, 60-62を読んでおきましょう(120分)	転倒リスクにはどのようなものがあるのか整理しましょう(120分)
7	高齢者の生活機能評価: 健康関連QOL	①			テキストのp.49-52を読んでおきましょう(120分)	HRQOLスケールの特徴をまとめましょう(120分)
8	高齢者の心理, 接し方	②			テキストのp.7-12を読んでおきましょう(120分)	高齢者の心理や接し方をまとめましょう(120分)
9	高齢者の家族関係: 虐待	②			高齢者の虐待のニュースを検索してみましよう(120分)	家族内で生じる問題について整理しましょう(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者の理学療法を実施する上での留意事項：リスク管理，運動負荷	① ②			脳血管障害で学んだ基本的リスク管理を復習しておきましょう (120分)	特に心臓血管系のリスク管理法について整理しましょう (120分)
11	介護予防プラン作成 1	① ②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	高齢者の運動療法について整理しましょう (120分)
12	介護予防プラン作成 2	① ②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	セラバンドを用いた介護予防プランを作成しましょう (120分)
13	症例検討課題	②			配布資料を読んでおきましょう (120分)	感染症予防について，症例を基に整理しましょう (120分)
14	死生観	① ②			終末期医療について検索してみましょう (120分)	終末期の患者に接する際の対応方法についてまとめましょう (120分)
15	癌に対する理学療法	①			癌とはどのような病なのか検索してみましょう (120分)	癌の理学療法の基礎を整理しましょう (120分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
筆記試験90%，提出物10% (進行状況により提出物を変更する。評定の割合も変動する)						
使用教科書						
シンプル理学療法シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 改訂第2版 / 山田和政/小松泰喜/木林勉--南江堂，2021，ISBN 978-4-524-22824-9 資料を配布します。小テストと課題作成を行います。						
参考図書						
終末期リハビリテーション (荘道社) 運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法 (文光堂) 高齢者リハビリテーション実践マニュアル (メディカルビュー)						
	課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	添削後，返却する。				
	備考	積極的な参加を期待する。知識の修得だけでなく，将来，治療対象となる可能性の高い高齢者に対して，どのような視点・心情で向かうべきなのか感じてもらいたい。				

授業科目名		担当教員				
脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏コパス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）				
授業概要						
脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）は、1年次の神経系、脳血管系解剖学を復習するとともに、リハビリテーションの代表的な対象となる脳血管障害の臨床所見、検査方法を学習する。運動麻痺の「片麻痺」とはどのような状態なのか、歩行や起き上がりはどのような動きとなるのか等、特徴的な動きについても学ぶ。						
学修の到達目標						
①神経疾患の病理や症状を学ぶための基礎（中枢神経の解剖・生理学の知識）を定着させること。 ②中枢神経疾患の病理、臨床症状の関係について理解すること。 ③臨床でもっとも遭遇する可能性の高い、脳血管障害の評価法と治療のアウトラインを修得すること						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害とはどのような疾患なのか	①	大場	講義	教科書に掲載されている脳と脊髄の図を見て立体的なイメージを持っておきましょう。(30分)	配布資料を見直しましょう。(30分)
2	中枢神経系理学療法の基礎知識：中枢神経系の構造と機能	①	大場	講義	解剖学Ⅲで学んだ中枢神経系の復習しておきましょう。(30分)	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
3	中枢神経系理学療法の基礎知識：脳血管系の構造と機能	①	大場	講義	教科書の図をみて、脳血管の走行を確認しておきましょう。(30分)	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
4	運動と感覚の中枢機能と構造	①	大場	講義	解剖学Ⅲで学んだ脊髄の神経路を復習しておきましょう。(30分)	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
5	脳損傷の定義と病態：NINDS-III, 脳梗塞, 一過性脳虚血	②	堀	講義	脳梗塞・一過性脳虚血発作の生じる血管部位について再確認しましょう(30分)	部位ごとの脳梗塞の病態を整理しましょう(30分)
6	脳損傷の定義と病態：脳出血, くも膜下出血, 頭部外傷	②	堀	講義	脳出血・くも膜下出血の生じる血管部位について再確認しましょう(30分)	部位ごとの脳出血とくも膜下出血の病態を整理しましょう(30分)
7	神経疾患の画像診断	③	大場	講義	教科書の脳の図をみて、立体的に捉える練習しておきましょう。(30分)	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)
8	脳の損傷とその回復：可塑性, ペナンブラ, 使用依存性の回復	②	堀	講義	教科書Lecture1を読んでおきましょう(30分)	急性期と維持期の回復の違いを整理しましょう(30分)
9	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ：急性期, 回復期, 維持期	②	大場	講義	教科書p120, 134を一読しておきましょう。(30分)	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴	③	堀	講義	教科書Lecture6の運動障害を読んでおきましょう(30分)	ブルンストロームステージ評価の内容を再確認しましょう(30分)
11	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：Impairment	③	堀	講義	教科書Lecture7の評価を読んでおきましょう(30分)	各種運動麻痺の評価の特徴を整理しましょう(30分)
12	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：activity limitation	③	堀	講義	教科書Lecture8の評価を読んでおきましょう(30分)	各バランステスト，ADL評価を整理しましょう(30分)
13	脳血管障害後片麻痺患者に対する評価：姿勢，動作，歩行	③	堀	講義	教科書Lecture14の症例：寝返り，起き上がりなどを見ておきましょう(30分)	脳卒中片麻痺患者の動作の特徴を整理しましょう(30分)
14	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法：歩行，起居動作，可動域訓練	③	堀	実技	教科書Lecture9の運動療法を読んでおきましょう(30分)	課題得意的トレーニング・歩行訓練の特徴を整理しましょう(30分)
15	脳血管障害後片麻痺患者に対する理学療法：ADL	③	大場	演習	配布資料を確認しておきましょう。(30分)	講義内容(注意するポイントなど)を復習しておきましょう。(30分)
	定期試験(筆記)	① ③	堀 大場			
評価基準・評価方法						
期末試験100%。堀50%，大場50%ずつ出題。各担当が行う小テストを基に出題する。						
使用教科書						
理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅰ第2版 / 責任編集：大畑光司—中山書店，2020，ISBN 978-4-521-74496-4 理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅱ第2版 / 責任編集：大畑光司—中山書店，2021年，ISBN 978-4-521-74497-1 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所。—第2版—メディックメディア，2017年，ISBN978-4-89632-686-4						
参考図書						
ベットサイドの神経のみかた(南山堂) 絵で見る脳と神経(医学書院) 第3版 リ実践テクニック 脳卒中(メディカルビュー)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストは随時返却。					
備考	脳血管障害は将来臨床に出会ってから高い頻度で出会う障害です。障害像を掴むように努めてください。解らない内容を後回しにせず，その都度整理につとめることが大切です。3年の臨床実習，国家試験では，脳の機能解剖と合わせて理解していることが大切になります。質問はメールでも受け付けます。					

授業科目名		担当教員				
脳・神経機能障害学Ⅱ（各論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 仏コバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏（理学療法士）、大場かおり（理学療法士）				
授業概要						
脳・神経機能障害学Ⅱ（各論）では、脳血管障害における合併症について説明するほか、衣服着脱や移乗動作など、日常生活を視野に入れた演習を行います。また、脳血管障害以外の神経系疾患を取り上げ、病理、臨床所見、治療について学習します。この科目で得た知識は学年末の臨床実習に必要な知識ですので、十分に学習しましょう。						
学修の到達目標						
①脳血管障害の合併症について、特徴や治療方法を修得すること。 ②神経系疾患についての基礎知識を、解剖学や病理学との関連を踏まえて修得すること。 ③神経疾患について、臨床所見や治療法についての理解を深めること。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害における合併症 肩の障害 視床痛 嚥下障害	①	大場	講義	教科書（15レクチャー）のp107～を一読しましょう。（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
2	脳血管障害における合併症 脳神経症状	①	大場	講義	「病気がみえる7」のp242～を一読しましょう。（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
3	高次脳機能障害：概要 失語症	①	大場	講義	「病気がみえる7」p22～大脳皮質の部分を一読しておきましょう（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
4	高次脳機能障害：失行 失認	①	大場	講義	「病気がみえる7」p157高次脳機能障害を一読しておきましょう（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
5	脳血管障害の症例検討	①	大場	講義	今まで学習してきた脳血管障害の臨床症状について復習しておきましょう。（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
6	パーキンソン病の病態	②	堀	講義	教科書Lecture19を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）
7	理学療法パーキンソン病に対する理学療法	③	堀	講義	教科書Lecture20を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて評価・理学療法の整理しましょう（30分）
8	運動失調症の病態と理学療法	② ③	大場	講義	教科書（15レクチャー）のp61を一読しておきましょう（30分）	配布資料および授業中に示した教科書のページを見直しておきましょう。（30分）
9	頭部外傷・脳腫瘍の病態	②	堀	講義	教科書Lecture25を読んでおきましょう（30分）	ワークシートを用いて病態、症状の整理しましょう（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	多発性硬化症（重症筋無力症含む）の病態	②	堀	講義	教科書Lecture27を 読んでおきましょう (30分)	ワークシートを用い て病態、症状の整理 しましょう (30分)
11	多発性硬化症（重症筋無力症含む）の理学療法	③	堀	講義	教科書Lecture28を 読んでおきましょう (30分)	ワークシートを用い て評価・理学療法の 整理しましょう (30分)
12	理学療法筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法	② ③	堀	講義	教科書Lecture29・ 30を読んでおきま しょう (30分)	ワークシートを用い て病態、症状・理学 療法の整理しまし ょう (30分)
13	脊髄損傷の病態：運動系	②	堀	講義	日常生活活動学等 の本で脊髄損傷の活 動を読んでおきま しょう (30分)	ワークシートを用い て病態、症状の整理 しましょう (30分)
14	脊髄損傷の病態：自律神経系 神経因性膀胱	②	大場	講義	「病気がみえる7」 p230自律神経系の部 分を一読しておき ましょう (30分)	配布資料および授業 中に示した教科書の ページを見直してお きましょう。(30分)
15	ギランバレー症候群，シャルコ・マリー・トゥ ース病，水頭症	②	大場	講義	「病気がみえる7」 p302～ギランバレー 症候群の部分を一読 しておきましょう (30分)	配布資料を見直し、 プランクを埋めてお きましょう (30分)
	定期試験（筆記）	① ② ③	堀 大場			
評価基準・評価方法						
期末試験100%。堀50%，大場50%ずつ出題。各担当が行う小テストを基に出題する。						
使用教科書						
理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ第2版 / 責任編集 大畑光司--中山書店，2020年，ISBN978-4-521-74496-4 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ第2版 / 責任編集 大畑光司--中山書店，2021年，ISBN978-4-521-74497-1 病気がみえる7 脳・神経 第2版 / 医療情報科学研究所.--メディックメディア，2017年，ISBN978-4-89632-686-4 小テストを実施します。						
参考図書						
ベットサイドの神経のみかた（南山堂） 絵で見る脳と神経（医学書院）						
課題（試験やレポート）に 対するフィードバックの方法	小テストは随時返却。					
備考	神経疾患は国家試験の出題が多い疾患です。障害像を掴むように努めてください。前学期「脳・神経機能障害学Ⅰ（総論）」と同様に、解らない内容を後回しにせずコツコツ理解するように努めてください。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節機能障害学（上肢）		田島 嘉人				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		田島嘉人(理学療法士)				
授業概要						
骨・関節機能障害学（上肢）では、上肢の機能解剖学（運動学・解剖学）等基礎知識の確認を行うと共に、主要な整形外科、外科疾患である上肢の関節の骨折及び軟部組織損傷、変形性関節症などの病態理解を深める。また、各整形外科的検査法をはじめとする評価結果を踏まえ、結果をどのように解釈するのか、理学療法をどのような流れで展開させるのかなどを学ぶ。授業形式は主にディスカッション、レポート、グループワークにて行い、Outputすることで、知識の定着と応用する力を養う。レポートの提出などはICTを活用する。						
学修の到達目標						
①臨床推論→評価項目抽出→検査→考察→問題点の抽出の流れを把握することができる ②主要な上肢の整形外科疾患の病態を理解することができる ③実習における報告連絡相談の方法について理解し、実践できる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論 整形外科疾患における知識の必要性	①			関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹の序文、目次(p. iii xvii)を読み、整形外科疾患を評価するための知識技術の必要性について理解する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
2	整形外科領域における評価No.1	①			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
3	PBL(肩関節病態運動学)No.1	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
4	PBL(肩関節病態運動学)No.2	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
5	PBL(肩関節病態運動学)No.3	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
6	PBL(肩関節病態運動学)No.4	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
7	PBL(肩関節病態運動学)No.5	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
8	PBL(肩関節病態運動学)No.6	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)
9	PBL(手関節病態運動学)No.1	① ② ③			配布資料を熟読する(30分)	レポートおよび配布資料の復習(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	PBL (手関節病態運動学) No. 2	① ② ③			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
11	PBL (手関節病態運動学) No. 3	① ② ③			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
12	PBL (手関節病態運動学) No. 4	① ② ③			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
13	肘関節病態について	②			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
14	整形外科領域における評価No. 1	① ②			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
15	整形外科領域における評価No. 2	① ②			配布資料を熟読する (30分)	レポートおよび配布資料の復習 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
グループディスカッション参加度 (40%)、レポート (期限提出) (30%)、期末試験 (30%)						
使用教科書						
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹 改訂第2版 / 林 典雄 浅野昭裕. --整形外科リハビリテーション学会--(株)メジカルビュー社, 2014年, ISBN978-4-7583-1478-7						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートの返却					
備考	骨関節機能障害の理解に必要な解剖学、運動学、疾患学などの知識の応用と実習に必要な臨床推論から問題点の抽出までの臨床における理学療法の考え方を学びます。分からないこと、理解できないことがあれば、すぐに質問してください。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節機能障害学（下肢・体幹）		曾田 直樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹（理学療法士）				
授業概要						
骨・関節機能障害学（下肢・体幹）では、理学療法を実施する機会の多い下肢・体幹の運動学、歩行における役割を学ぶ。また各関節に生じやすい疾病（大腿骨頸部骨折、T H Aなど）を中心に、運動学的見地を交えて障害を捉える方法について学ぶ。臨床運動学や骨関節治療技術と関連する。講義ではディスカッションなどを通して知識や動作の理解を深める。						
学修の到達目標						
①下肢・体幹の疾患についての病態を理解し、その理学療法を理論的に説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	股関節の解剖・運動学	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
2	股関節疾患（大腿骨頸部骨折の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
3	股関節疾患（大腿骨頸部骨折の理学療法）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
4	股関節疾患（変形性股関節症の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
5	股関節疾患（変形性股関節症の理学療法）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
6	膝関節の解剖と運動学	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
7	膝関節疾患（変形性膝関節症の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
8	膝関節疾患（変形性膝関節症の理学療法）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)
9	膝関節疾患（靭帯損傷の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習(30分)	講義の復習(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	膝関節疾患（靭帯損傷の理学療法）	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
11	膝関節疾患（半月板損傷）	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
12	足関節の解剖と運動学	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
13	足関節疾患（捻挫の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
14	足関節疾患（捻挫の理学療法）	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
15	足関節疾患（捻挫の病態と評価）	①			解剖学、運動学の復習（30分）	講義の復習（30分）
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
<p>評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視          評価方法：定期試験（90%）、態度・意欲（10% 小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。</p>						
使用教科書						
<p>関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢 / 整形外科リハビリ学会、--改訂第2版--メジカルビュー、2014年、ISBN978-4-7583-1479-4</p>						
参考図書						
<p>・筋骨格系のキネシオロジー 原著：Donald A 監訳：島田智明ら 医歯薬出版株式会社</p>						
	課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義の中で解説				
	備考	オフィスアワー 月曜日12:25~13:15				

授業科目名		担当教員				
内部機能障害学（循環器系）		長谷部 武久・河合 克尚（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 小ハス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久（理学療法士） 河合克尚（理学療法士）				
授業概要						
主に虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症）や心不全などの循環器疾患を引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。また、循環器疾患に対する理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。12～14回目は循環器疾患症例についてPBL方式によるグループ学習を取り入れることで、柔軟な課題発見、問題解決のための専門知識を養う。						
学修の到達目標						
①循環器系の解剖と生理について述べるができる ②虚血性心疾患に対する評価および理学療法について述べるができる ③心不全に対する評価および理学療法について述べるができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	運動と循環	①	河合		教科書（p.11-20）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	運動耐容能とその評価	①	河合		教科書（p.39-46）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	心電図の診かた	①	河合		教科書（p.31-37、p.93-104）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	心電図の診かた	①	河合		教科書（p.31-37、p.93-104）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	虚血性心疾患の病態と治療	②	河合		教科書（p.21-30）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	虚血性心疾患の病態と治療	②	河合		教科書（p.57-62）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.25-27）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.81-84）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	心不全の病態、検査と治療	③	長谷部		教科書（p.31-33、p.81-84、p.86-87）に目を通すこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	循環器疾患の運動療法	② ③	長谷部		教科書 (p.57-71) に目を通すこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
11	循環器疾患の運動療法	② ③	長谷部		教科書 (p.85-92) に目を通すこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
12	グループディスカッション①	② ③	長谷部 河合		授業内容の復習をすること (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
13	グループディスカッション②	② ③	長谷部 河合		グループ学習で得た知識の整理 (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
14	グループディスカッション③	② ③	長谷部 河合		グループ学習で得た知識の整理 (30分)	発表資料の作成 (30分)
15	プレゼンテーション (グループ発表)	② ③	長谷部 河合		発表資料の作成 (30分)	他のグループ発表から得た知識の整理 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
グループ活動への参加度 (10%)、定期試験 (90%) とする						
使用教科書						
シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト / 山崎裕司ほか. --細田多穂--南江堂, 978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、授業の理解度を確認するための小テストを実施直後、解答の解説を行います。					
備考	授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
内部機能障害学（代謝・呼吸器系）		河合 克尚・亀山 咲子（代表教員 河合 克尚）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 小ハス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚（理学療法士）・亀山咲子（理学療法士）				
授業概要						
糖尿病などの代謝系疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患を引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。また、理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。11～14回目は、代謝・呼吸器疾患症例についてPBL方式によるグループ学習を取り入れることで、柔軟な課題発見、問題解決のための専門知識を養う。						
学修の到達目標						
①糖尿病などの代謝系疾患に対する評価および理学療法について理解する。 ②慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患に対する評価および理学療法について理解する。 ③代謝系疾患、呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメントの技術を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	代謝系疾患（メタボリックシンドローム）の病態 代謝系の役割	①	亀山		教科書（p.23、p.307-316）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
2	糖尿病の病態	①	亀山		教科書（p.317-320）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
3	糖尿病の治療	①	亀山		教科書（p.321-329）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
4	糖尿病の障害理解	①	亀山		教科書（p.321、333-344）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
5	糖尿病の理学（運動）療法	①	亀山		教科書（p.345-363）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
6	運動と呼吸	②	河合		教科書（p.2-4、p.155-162）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
7	酸素化能と換気能力	②	河合		教科書（p.179-188）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
8	代表的な呼吸器疾患	②	河合		教科書（p.163-177）のCOPDと間質性肺炎について目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）
9	呼吸理学療法のための評価	②	河合		教科書（p.195-203）に目を通しておくこと（30分）	授業内容の復習をすること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	COPDの理学療法	②	河合		教科書 (p.215-238) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
11	フィジカルアセスメント	③	河合 亀山		糖尿病と呼吸器疾患の理学療法評価について復習しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
12	グループディスカッション (糖尿病症例)	① ②	河合 亀山		授業内容の復習をすること (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
13	グループディスカッション (糖尿病症例) グループ発表	① ②	河合 亀山		課題に対する調べ学習 (30分)	他のグループ発表から得た知識の整理 (30分)
14	グループディスカッション (COPD)	① ②	河合 亀山		授業内容の復習をすること (30分)	グループ学習で得た知識の整理 (30分)
15	グループディスカッション (COPD) グループ発表	① ②	河合 亀山		課題に対する調べ学習 (30分)	他のグループ発表から得た知識の整理 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
グループワークへの参加度 (10%) と定期試験 (90%) から判断する						
使用教科書						
内部障害理学療法学テキスト / 監修: 細田多穂. --改訂第3版--南江堂, 2017年, ISBN978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	PBLの課題に対するフィードバックは授業内に行います。					
備考	授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp s.kameyama@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
発達機能障害学		松田 充弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		松田充弘(理学療法士)				
授業概要						
成人の障害は、一度獲得した機能の回復となるが、小児での障害に対しては、障害に応じて発達を築き上げていく必要がある。発達を促していくために必要な、正常発達について、主に運動に注目して学習する。小児特有の疾患である脳性麻痺・二分脊椎・筋ジストロフィー症について、障害の特徴・評価・治療について学習する。特に脳性麻痺については、タイプによる特徴・問題点・治療方法について詳しく学習する。						
学修の到達目標						
①姿勢・運動の障害の分析が質的に行うことができる。 ②正常運動発達を理解し、肢体不自由児の発達、運動の問題点を理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発達障害学概論・正常発達概論(小児期で理学療法の対象になる疾患について)	②			資料が事前に配布されていれば、正常発達まで目を通しておく。(45分)	解剖学の再確認、講義資料の復習(45分)
2	正常発達 新生児期～6ヶ月(出生してから、どのようにして頸が座るのか?どのようにして座れるようになるのか?)	②			You tubeで正常発達(新生児期～歩き始めまで)の動画を見ておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
3	正常発達 7ヶ月～12ヶ月(どのようにして歩行を獲得するのか?)	②			You tubeで正常発達(新生児期～歩き始めまで)の動画を見ておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
4	脳性麻痺概論(脳性麻痺の原因・特徴・問題点について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
5	評価概論(脳性麻痺を中心に評価方法について)	①			運動学を復習し姿勢保持に必要な筋活動を確認しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
6	評価(姿勢筋緊張の評価、姿勢・動作分析について 座位バランス等の簡単な実技も行う)	①			運動学を復習し姿勢保持に必要な筋活動を確認しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)
7	評価(日常生活動作の評価について)	①			食事動作、更衣動作に必要な要素を自分の動作で確認しておく。(45分)	自分の食事動作、更衣動作を講義の内容を復習しながら分析してみてください。(45分)
8	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(障害の特徴について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。(45分)
9	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(問題点、理学療法について)	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。(45分)	講義資料の復習、板書のまとめ(45分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳性麻痺類型別痙直型四肢麻痺（障害・問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
11	脳性麻痺類型別片麻痺（障害の特徴について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
12	脳性麻痺類型別片麻痺（問題点・理学療法について）	②			治療で用いる日常生活、遊びでの両手動作を考えておいて下さい。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
13	脳性麻痺類型別アテトーゼ（障害の特徴について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ、線図で姿勢を描けるようにしておきましょう。（45分）
14	脳性麻痺類型別アテトーゼ（問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
15	二分脊椎・筋ジストロフィー症（障害・問題点・理学療法について）	②			該当する講義資料部分を目を通して予習しておく。（45分）	講義資料の復習、板書のまとめ（45分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験100%						
使用教科書						
プリントを配布します。						
参考図書						
講義の際に紹介します。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義のみで課題の提出はありません。					
備考	板書を多くしますので、ノートなどを準備して下さい。					

授業科目名		担当教員				
物理療法学（温熱療法）		大場 かおり				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		大場かおり（理学療法士）				
授業概要						
物理療法は物理的手段で生体の自然治癒力を高めるものである。理学療法の治療体系での位置づけを学び、熱エネルギーが生体に与える生理学的作用・治療効果・治療目的・適応と禁忌について学習する。さらに物理療法機器を実際に用いてグループで演習を行ない、治療効果、使用方法、使用上の注意、安全確保についてグループでディスカッションしてレポートを作成する。						
学修の到達目標						
①温熱や寒冷が人体にもたらす生理学的、物理的影響を理解すること。 ②疾患の特性、患部の状況に応じた治療方法の選択ができること。 ③効果的かつ安全な物理療法技術について理解し習得すること。 ④使用機器の特性を理解し、対象者に適切に説明し安全に配慮してできること。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理療法について：物理療法の総説（定義、歴史、効果、リスク管理）	①	大場	講義	教科書の第2章を事前に読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせながら復習しておきましょう（60分）。
2	熱の物理学：温熱療法実施に必要な物理学	①	大場	講義	教科書p25-28を読み、高校までに学習した物理学の基礎を復習しておきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
3	熱の生理学：温熱療法が生体に与える生理学的影響について	①	大場	講義	教科書p29-34を読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
4	温熱療法総論：温熱療法の種類、適応、禁忌	① ②	大場	講義	教科書p7-8を読み、温熱療法の種類を把握しておきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
5	ホットパック療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③	大場	講義	教科書p34-39を読んでおきましょう（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
6	パラフィン浴療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③	大場	講義	教科書40-45を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
7	高周波療法：生理作用、適応、禁忌	② ③	大場	講義	教科書p70-78を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
8	超短波・極超短波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③	大場	講義	教科書p79-89を読んでおきましょう（30分）。	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）
9	超音波療法：超音波の概要	② ③	大場	講義	教科書p130-139を読んでおきましょう。（30分）	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	超音波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③	大場	講義	教科書p139-146を読んでおきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
11	赤外線療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理	② ③	大場	講義	教科書p91-97、p106-114を読んでおきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
12	物理療法の臨床応用について	② ③	大場	講義	事前学習 今まで配布された資料や教科書の該当ページを復習しておきましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
13	寒冷療法：寒冷が生体に与える生理学的影響について、適応、禁忌	① ②	大場	講義	教科書p47-53を読み、寒冷と温熱との比較をしましょう。(30分)	配布資料の内容と教科書の該当箇所を照らし合わせ、復習しておきましょう。(60分)
14	温熱療法演習：グループワーク 各論で学習した機器を使用し、生体に与える温熱の影響についてディスカッションする。	③ ④	大場	演習	教科書、配布資料を確認しておきましょう。(30分)	グループワークで学んだことを復習しつつレポートを完成させましょう(60分)。
15	寒冷療法演習：グループワーク 寒冷療法演習：グループワーク 各論で学習した機器を使用し、生体に与える寒冷の影響についてディスカッションする。	③ ④	大場	演習	教科書、配布資料を確認しておきましょう。(30分)	グループワークで学んだことを復習しつつレポートを完成させましょう(60分)。
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
演習後のレポート(10%)、筆記試験(90%)の総合評価です。試験では、特に熱の生理学的・物理学的影響、物理療法の適応と禁忌について、知識が定着しているかをみます。演習レポートはグループディスカッションの結果を個人でまとめます。提出期限厳守とし、期限を過ぎたものは評価対象になりません。						
使用教科書						
物理療法学 / 松澤正.--改訂第3版--金原出版, 2012年, 978-4-307-75063-9						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポートは書式が整っているか、および課題に対する回答がなされているかをポイントに確認します。不備が多い場合は再提出もあり得るので、注意しましょう。					
備考	質問は随時受け付けます。名称に「物理」とつくつと尻込みする人がいますが、必ず理解できますので積極的に質問に来ましょう。メールでも対応可能です。 k.ooba@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
物理療法学（電気・牽引・水治療法）		辻 圭一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		辻圭一（理学療法士）				
授業概要						
電気・牽引・水治療法の講義では、治療に利用する光線、電気、牽引、水の特性と、それぞれが持つエネルギーが生体に与える生理学的作用および治療効果や治療目的、適応と禁忌について学習する。また、自然科学におけるエネルギーの物理的作用についても言及する。実習では物理療法機器を実際に用い、使用方法、使用上の注意、安全確保を学習する。講義を通じて医療従事者の基本的態度を身につけ、効果的かつ安全な治療行為の習得を目指す。						
学修の到達目標						
①各療法が生体に作用する原理が理解できる。 ②適応となる疾病や禁忌となる疾病を理解できる。 ③機器や手技を体験し、特性が理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	光線療法概論（光・波長・周波数について） p91-95	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
2	光線療法概論（電磁波・可視光線・放射線について） p96-97	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
3	紫外線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌） p98-106	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
4	レーザー光線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌） p114-127	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
5	水治療法（水の力学的作用・機器の説明・適応と禁忌） p189-222	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
6	牽引療法（牽引療法の原理・機器の説明・適応と禁忌） p223-248	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
7	電気療法（電気の基礎、電圧・電流・抵抗について） p149-150	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
8	電気療法（電気生理学） p150-156	①		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
9	電気療法（電気療法の生体への影響） p157-164	②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電気療法（電気療法の実際（低周波治療・TENS・SSP・干渉波・FES・TES）） p165-188	②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
11	筋電図バイオフィードバック療法（方法、適応、注意点について）	① ②		講義	特になし	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（90分以上）
12	疼痛の分類、マッサージ療法の理論 p249-264	① ②		講義	教科書の該当ページを確認しておくこと（45分以上）	講義中に配布された資料を再確認し、名称や数値を覚えること（45分以上）
13	演習1.（水治療法・牽引療法）	③		演習	各療法について復習しておくこと（45分以上）	各療法の適応と禁忌を確認すること（45分以上）
14	演習2.（光線療法・電気療法）	③		講義 演習	各療法について復習しておくこと（45分以上）	各療法の適応と禁忌を確認すること（45分以上）
15	演習3.（マッサージ療法）	③		演習	マッサージ療法について復習しておくこと（45分以上）	マッサージ療法の適応と禁忌を確認すること（45分以上）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
受講態度（30%）定期試験（70%）						
使用教科書						
物理療法学 / 松澤正.--改訂第3版--金原出版, 2021年, 978-4-307-75063-9						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	試験範囲および出題形式について、第1回に連絡します。					
備考	本講義にノートは必要ありません。それに代わるレジュメを配布します。レジュメは中間テストと定期試験の勉強に必要となるので、講義中に十分な書き込みをし大切に保管する事。					

授業科目名		担当教員				
義肢装具学		石田 裕保・篠田 信之 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義 仏コバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、篠田信之(義肢装具士)				
授業概要						
<p>装具の種類・機能・使用目的などを学ぶ。動作に必要な運動機能と装具の物理的特性との関連を理解することにより、障害に応じた装具の選択、チェックアウトを確認できるようにする。(担当;石田 8コマ)</p> <p>義肢装具学では、切断者の術前評価・術後管理から各義肢の目的・機能等を学ぶ。義肢装着時の歩行のチェックアウト(異常歩行の問題点を抽出)が行えるようにする。(担当;篠田 7コマ)</p>						
学修の到達目標						
<p>①病態を理解し、適切な義肢を処方出来るようにする。</p> <p>②障害を理解し、適切な装具を処方することができるようにする。</p>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	義肢学総論;義肢全般の考え方・ヒストリー	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
2	切断術について;切断の原因及び切断部位、切断部位の選択、切断術	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
3	断端ケアと訓練;各ドレッシング方法について(実技、幻肢、幻肢痛、浮腫)	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
4	義肢各パーツ;ソケット・継手など義肢の基本事項、義足	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
5	義肢;膝・足及びアライメント、継手の機能と種類	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
6	義肢;大腿義足・下腿義足チェックアウト 大腿・下腿、膝継手の立脚相、遊脚相の役目、足部	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
7	異常歩行;大腿義足、下腿義足(膝・サイム足根)、義手	①	篠田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った義肢の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
8	装具学総論;歴史・定義・目的・種類・分類・材料・制作過程(法制度)・E B M	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
9	下肢装具について;種類と機能、継手	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	短下肢装具;種類と機能	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
11	長下肢装具、杖;種類と機能	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
12	靴型装具;種類と各種補正	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
13	下肢装具のチェックアウト;支柱付き長下肢装具・短下肢装具、プラスチック製短下肢装具	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
14	各体幹装具、側彎症装具;頸椎、胸椎、腰椎、仙椎装具及び特殊装具、コブ角計測方法について	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
15	手の装具、特殊装具(ペルテス病、先天性股関節脱臼、先天性内反足、脳性麻痺など)	②	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて該当範囲を一読して下さい。(120分)	学んだ知識を整理しノートに環蹴るにまとめるようにして下さい。講義で習った装具の名称、機能、使用目的をしっかりと覚えてください。(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末試験(80%)、小テスト(20%)を総合的に判断する。						
使用教科書						
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 / 石川朗、永富史子。--中山書店, 2011年, 978-4-521-73225-1 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 / 石川朗、佐竹将宏。--中山書店, 2011年, 978-4-521-73226-8						
参考図書						
【義肢学】切断と義肢 初版 (医歯薬出版(株)) 【装具学】・義肢装具学 第4版 (医学書院)・装具治療マニュアル/装具学 第3版 (医歯薬出版)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	適宜小テストを行い、採点し返却します。					
備考	講義は、座学形式で行なう。ビデオを使用したり、実技を行なったりする。適宜プリント資料を配付する。小テストは、事前に連絡し行なう。小テストの解説を行う。質問がある場合は、オフィスアワーなどに来てください。					

授業科目名		担当教員				
日常生活活動学		石田 裕保・大場 かおり・亀山 咲子 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授業概要						
理学療法では日常生活活動の改善を主要な治療目標にしている。その基礎知識として概念、目標、範囲を整理し、障害構造(ICF)などを教授する。脳血管障害、脊髄損傷、慢性疼痛など日常生活に支障を生じる主要な疾患を想定し、日常生活障害を具体化し、グループワークなどを行い、治療目標を見つけ出すことができるよう教授する。また、様々なADL評価方法や動作分析の方法を教授する。臨床実習で直接的に患者様に関わる時に必要となる「動作介助」の実技を2人1組で行い、指導方法、介助技術〔言葉の使い方、介助の程度、介助の方法〕を教授する。又、生活範囲を広げていく為に必要な補装具や福祉用具の使用法についても教授する。主に車椅子、杖の使い方、段差・階段移動等を中心に指導を進める。						
学修の到達目標						
①ADLの概念について理解する。 ②動作介助の実技を習得する。 ③評価方法を理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 概論 日常生活活動学	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
2	ADLとAPDL	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
3	できるADL・しているADL、ICF、ICIDH	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
4	更衣動作、浴槽への移乗、環境整備、座位保持装置	①	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
5	脊髄損傷の評価方法 ASIA、Zancoli など	③	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
6	ADL評価法 (BI、カツなど)	③	石田	講義	講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	その日に行った講義範囲の教科書、配布資料等見直しをし、学んだことを簡潔にまとめるなど、自分ノートづくりをしてください。(120分)
7	歩行器、車椅子、車椅子の取り扱いについて	②	石田 大場 亀山 澤村	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
8	トランスファー 車いす台ベッド 1人介助 リフターの使い方	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
9	トランスファー 車いす台ベッド 2人介助	②	石田 大場 亀山	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	動作介助、背臥位⇔腹臥位	②	石田大場 亀山澤村	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
11	床からの立ち上がり	②	石田大場 亀山澤村	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
12	杖・松葉杖歩行	②	石田大場 亀山澤村	演習	講義前に授業計画内容と教科書(イラストによる安全な動作介助の手引き)を照らし合わせて範囲を一読して下さい。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
13	トランスファー 整形疾患、中枢疾患	②	石田大場 亀山澤村	演習	講義前に整形疾患や中枢疾患の病態について調べておいてください。(120分)	講義時間以外の時間を確保し、教室の使用許可を得て、実技の練習を行って下さい。(120分)
14	ADL評価法 (FIM・SIAS)	③	大場	講義	「脳卒中の機能評価」p40-43 (SIASの特徴と概要)の内容を確認しておきましょう。検査内容を示す図を見てください。(120分)	教科書と配布資料を用いて概要を復習しましょう。(120分)
15	ADL評価法 (FIM・SIAS)	③	大場	講義	「脳卒中の機能評価」p83-89 (FIMの特徴と概要)を確認しておきましょう。(120分)	教科書をよく復習し、巻末の症例紹介を読みながら採点してみましょう。(120分)
	定期試験 (筆記・実技)					
評価基準・評価方法						
<p>期末試験 (80%)。小テスト (20%) をもって総合的に判断する。          期末試験は実技と筆記を行う。</p>						
使用教科書						
<p>標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 / 鶴見隆正ほか。--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8          新 イラストによる安全な動作介助のてびき / 飛松好子編著。--第3版--医歯薬出版社, 2016年, ISBN978-4-263-21731-3          脳卒中の機能評価SIASとFIM〔基礎編〕 / 千野直一ほか。--金原出版, 2012年, ISBN978-4-307-75033-2</p>						
参考図書						
講義の際、適宜紹介します。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	希望者は期末試験終了後、実技に関して、よかったところ、修正すべきところをフィードバックします。					
備考	主にADL評価方法(座学)と動作介助(演習)を行う。演習の際は講義内で指定した場所・服装で行って下さい。 座学と演習の講義を行うため、講義によって使用教室が異なります。その場合、事前に連絡します。 適宜プリント資料を配付する。質問がある場合は、オフィスアワーなどに確認をして下さい。					

授業科目名		担当教員				
理学療法総合セミナー I		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、長谷部武久(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授業概要						
解剖学一(骨・筋肉系)、運動学総論、臨床運動学で学んだ知識をもとに、理学療法評価のひとつである歩行分析を学ぶ。その際、ビデオ資料などを用いる。この科目で学んだ知識は2年次の後学期に開講される「理学療法総合セミナーII」、「評価実習前セミナー」、「臨床実習II(評価)」に発展する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。						
学修の到達目標						
①動作分析の意義・方法について理解する ②正常歩行の成り立ち・メカニズムについて理解する ③実習で必要な異常歩行の線画作成や文章化を出来るようにする						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	動作分析とは	①	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
2	評価意義 観察から評価へどのように関連付けるのか?	①	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
3	正常歩行の運動学的事項の確認	②	石田	講義	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
4	正常歩行の線画作成(練習)	②	石田	演習	1年次科目の「運動学総論」「臨床運動学」の復習を行って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
5	正常歩行の線画作成	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
6	正常歩行の線画作成	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
7	正常歩行の観察文章化	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
8	正常歩行の観察文章化	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)
9	正常歩行の観察文章化(まとめ)	②	石田	演習	前回の講義で行ったことを含手指って下さい。(60分)	講義内容やレポート指導されたこと等を復習し理解して下さい。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
11	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
12	異常歩行の線画作成	③	石田 長谷部 辻藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
13	異常歩行の観察文章化	③	石田 長谷部 辻藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
14	異常歩行の観察文章化	③	石田 長谷部 辻藤橋 植木	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
15	異常歩行の観察文章化(まとめ)	③	石田	演習	前回の講義で行ったことを含手指てください。(60分)	講義内容やレポート等 指導されたこと等を 復習し理解してくだ さい。(60分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末試験(80%)、レポート(20%)をもって総合的に判断する。						
使用教科書						
基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版社, 2003年, ISBN978-4-263-21153-3 臨床運動学 / 中村隆一ほか.--第3版--医歯薬出版社, 2002年, ISBN978-4-263-21134-2						
参考図書						
観察による歩行分析 訳 月城慶一ほか(医学書院)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義中にレポートの書き方などを複数の教員で個別に指導します。提出されたレポートに関しては、添削などを行い返却します。					
備考	1年生に学んだ知識の復習、学び直しのいい機会です。分からない事がある場合は、すぐに解決するようにして下さい。 随時、質問を受け付けます。					

授業科目名		担当教員				
理学療法総合セミナーⅡ		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		石田裕保(理学療法士)、長谷部武久(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)				
授業概要						
「理学療法総合セミナーⅠ」で学んだ正常歩行や異常歩行の線画・観察文章をもとに、実際の患者の歩行映像をビデオで流し、理学療法の臨床思考(動作から考えられる問題点の抽出、考察及び統合と解釈)を身につけることを目的とする。この科目で学んだ知識は、2年次の後学期の「評価実習前セミナー」、「臨床実習Ⅱ(評価)」と関連する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。						
学修の到達目標						
①実習に必要な態度を学ぶ。 ②実習のレポート作成に必要な知識について学び、異常歩行の問題点を抽出できるようにする。 ③パソコン操作が習得できるようにする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション 臨床での歩行分析について TPO	①	石田	講義	理学療法総合セミナーⅠで学習した内容を見直してください。(60分)	歩行に関して分からなかったこと等を調べて学習してください。(60分)
2	記録と報告について POSシステム SOAP	②	石田	講義	SOAP(臨床での記録方法)について調べてください。(60分)	講義で行ったことを見直し復習をしてください。(60分)
3	片麻痺患者の歩行観察及び分析	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	片麻痺の特徴的な歩行について事前に調べておいてください。(60分)	片麻痺の異常歩行について動作を模倣できるようにして下さい。(60分)
4	片麻痺患者の歩行観察及び分析	②	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	片麻痺の特徴的な歩行について事前に調べておいてください。(60分)	片麻痺の異常歩行について動作を模倣できるようにして下さい。(60分)
5	片麻痺患者の歩行観察及び分析	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ理解してください。(60分)
6	レポート書式説明および作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ理解してください。(60分)
7	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ理解してください。(60分)
8	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
9	レポート書式作成	② ③	石田 長谷部 辻 藤橋 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	問題点抽出	② ③	石田 長谷 辻 藤 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
11	考察および統合と解釈	② ③	石田 長谷 辻 藤 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
12	考察および統合と解釈	② ③	石田 長谷 辻 藤 植木	講義	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
13	レポートの書き方	③	石田 長谷 辻 藤 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
14	レポートの書き方	③	石田 長谷 辻 藤 植木	演習	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
15	レジュメの書き方	③	石田 長谷 辻 藤 植木	講義	前回の内容を見直してください。(60分)	本日用いた内容をまとめ整理し理解してください。(60分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
レポート(50%)、期末試験(50%)を総合して判断する。 レポートは、基本講義の時間内で作成します。						
使用教科書						
標準理学療法学専門分野 理学療法臨床実習とケーススタディ / 鶴見隆正ほか編集、--第2版--医学書院, 2011年, ISBN978-4-260-01207-2						
参考図書						
ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ(文光堂)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義中にレポートの書き方などを複数の教員で個別に指導します。提出されたレポートに関しては、添削などを行い返却します。					
備考	この講義ではパソコンを使用しますので、各自、事前に用意してください。エクセル・ワードが必要です。 分からないことは、事前に調べ、理解できない時にはいつでも質問に来て下さい。					

授業科目名		担当教員				
脳・神経系理学療法治療技術		堀 信宏・藤橋 雄一郎 (代表教員 堀 信宏)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義 小グループ			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)				
授業概要						
脳・神経系理学療法治療技術では、主に脳血管障害、脊髄損傷に対する具体的な治療手技を学ぶ。動作介助をはじめ、CI療法、関節可動域訓練などについて学ぶ。中でも脳血管障害者は理学療法の対象疾患として臨床上非常に高い頻度で遭遇する。その為、体系化された様々な治療手技について学ぶだけでなく、脳の多様な機能を反映した様々な臨床症状、リスクを学ぶ。						
学修の到達目標						
①脳血管の解剖学的理解と、損傷による病理的变化を修得する。 ②評価(アセスメント)/投薬/離床基準/可動域訓練/動作介助など、実践的な内容を修得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	脳血管障害のリスク管理と脳卒中治療ガイドライン	①	藤橋	講義	脳血管障害の特徴について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう(30分)。	起立・歩行の重要性について、生理学的な解釈を含め説明できるようにしましょう(30分)。
2	脳血管障害のチーム医療(連携)	①	堀	講義	脳血管障害の病期について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう(30分)	連携に必要な知識、評価について整理しておきましょう(30分)
3	脳出血：急性期、回復期、維持期の病態と理学療法の考え方	①	堀	講義	脳出血の病態について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう(30分)	発症後、患部(脳)がどのような変化をするのか整理しましょう(30分)
4	脳梗塞：急性期、回復期、維持期の病態と理学療法の考え方	②	堀	講義	脳梗塞の病態について、2年次の脳・神経機能障害学の内容を再確認しておきましょう(30分)	発症後、患部(脳)がどのような変化をするのか整理しましょう(30分)
5	急性期から維持期にかけてのリスク管理	②	堀	講義	リ基準、アンダーソンなどのリスク管理法を再確認しておいてください(30分)	特に急性期は細かいリスク管理が求められるため整理しましょう(30分)
6	評価：NIHSS, Fugl-Meyer, JSS, SIASなど	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキストの内容を再確認しておきましょう(30分)	各評価の特徴を整理しましょう(30分)
7	関節可動域、痛み：肩、股関節	②	堀	講義	肩関節と股関節の解剖学を復習しておきましょう(30分)	最も2次障害を生じ易い子の関節をどのように管理すれば良いか整理しましょう(30分)
8	脳血管障害の理学療法：CI療法、懸架トレッドミル、ミラー、BFなど	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキストの内容を再確認しておきましょう(30分)	様々な治療法の特徴について整理しましょう(30分)
9	痙縮治療：ボツリヌス療法	②	堀	実技	ボツリヌス療法とはどのような治療法なのか様々なデバイスで調べてみましょう(30分)	ボツリヌス療法の超短所を整理しましょう(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症例検討：急性期	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキスト（症例）の内容を再確認しておきましょう（30分）	理学療法の介入に夜症例の変化を捉えましょう（30分）
11	症例検討：回復期	②	堀	講義	2年次の脳・神経機能障害学テキスト（症例）の内容を再確認しておきましょう（30分）	理学療法の介入に夜症例の変化を捉えましょう（30分）
12	脳血管障害者の住環境整備	②	藤橋	講義	住環境整備に必要な家屋構造（生活環境論）や介護保険利用について調べておきましょう（30分）	住宅改修に必要な家屋構造について確認し、臨床実習に備えましょう（30分）。
13	脳血管障害者の装具療法	②	藤橋	講義	2年次に行った装具学（下肢装具）について、目的や特徴を再確認しましょう（30分）。	麻痺の程度に応じた装具の特徴・選定について再確認しましょう（30分）。
14	脊髄損傷の理学療法	②	藤橋	講義 演習	脊髄損傷の病態や障害の特徴、理学療法に必要な評価について調べましょう（30分）。	脊髄損傷者に対する理学療法を行う上での評価・訓練について検討しましょう（30分）。
15	脊髄損傷の理学療法（頸髄損傷当事者参加）	① ②	藤橋	講義 演習	脊髄損傷の病態や障害の特徴、理学療法に必要な評価について調べましょう（20分）。	頸髄損傷当事者より得た情報を踏まえ、理学療法プログラムを立案しレポートを作成しましょう（40分）。
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
筆記試験（80％）、頸髄損傷レポート（20％）にて判定する。						
使用教科書						
病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所。--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4 資料を配布する						
参考図書						
脳卒中理学療法の理論と技術 第3版（メディカルビュー）、理学療法テキスト神経障害理学療法学Ⅰ/Ⅱ（中山書店）、実践編 理学療法臨床思考（文光堂）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	授業内で随時実施する					
備考	資料を基に、実際に身体を動かして実践も行います。また、ディスカッションも交えながら進めますので、積極的な参加を期待します。					

授業科目名		担当教員				
骨・関節系理学療法治療技術		曾田 直樹・田島 嘉人 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義 小グループ			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)				
授業概要						
骨・関節系理学療法治療技術では、臨床運動学で学んだ四肢・脊椎の基礎知識を基に临床上遭遇しやすい骨・関節障害、スポーツ障害に対する病態、理学療法の考え方および治療手技を体系的に学ぶ。具体的には解剖学、生理学の観点からの“痛み”に関する講義、臨床的体表解剖、ストレッチなどの基本的テクニックについてはデモンストレーションと実技体験を実施する。また講義では、グループワークを活用し学びを深めていく。						
学修の到達目標						
① 変形性疾患についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 ② 脊椎疾患について解剖、運動学を説明することができる。 ③ 脊椎疾患についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 ④ 臨床での評価、治療における体表解剖、ストレッチなどの基本的テクニックの活用方法を説明することができる ⑤ ④における基本的な技術を対象者に実施することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	変形性関節症の病態について	①	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
2	変形性関節症の運動療法について	①	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
3	脊椎の解剖・運動学について	② ③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
4	脊椎疾患(脊柱管狭窄症について)	② ③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
5	脊椎疾患(椎間板ヘルニアについて)	② ③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
6	脊椎疾患(側弯症、圧迫骨折、腰痛症について)	② ③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
7	頸椎、腰椎の疾患	② ③	曾田	講義	解剖学をはじめ骨関節機能障害学の資料を復習しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
8	整形外科領域の理学療法	④	田島	講義	配布資料の事前学習(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
9	臨床的体表解剖 I	④	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習(30分)	触診技術の復習(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	臨床的体表解剖Ⅱ	④ ⑤	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	触診技術の復習 (30分)
11	徒手療法の基礎Ⅰ	④	田島	講義	配布資料の熟読 (30分)	配布資料の復習 (30分)
12	徒手療法の基礎Ⅱ	④ ⑤	田島	演習	配布資料の熟読 (30分)	配布資料の復習 (30分)
13	ストレッチⅠ	④	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	ストレッチ技術の復習 (30分)
14	ストレッチⅡ	④ ⑤	田島	演習	解剖学演習にて学習した筋の起始、停止、支配神経の復習 (30分)	ストレッチ技術の復習 (30分)
15	Fasciaを含む軟部組織に対する治療技術の基礎	④ ⑤	田島	講義	前腕における解剖学の復習 (30分)	配布資料の復習 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
<p>評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視          評価方法：定期試験（90％）、態度・意欲（10％ 小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。</p>						
使用教科書						
<p>運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢） / 林則雄. --改訂第2版--メジカルビュー社, 2011年, ISBN978-4-7583-1136-6          運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹） / 林則雄. --改訂第2版--メジカルビュー社, 2012年, ISBN978-4-7583-1137-3          プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄ほか監訳. --第3版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02534-8</p>						
参考図書						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科運動療法ナビゲーション 下肢・体幹(メジカルビュー)</li> <li>・標準理学療法学 骨関節理学療法学(医学書院)</li> </ul>						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で解説					
備考	オフィスアワーを活用してください。					

授業科目名		担当教員				
内部系理学療法治療技術		河合 克尚				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		河合克尚(理学療法士)				
授業概要						
呼吸器疾患に対する理学療法、心疾患に対する運動療法、糖尿病や末梢循環障害に対する予防・改善プログラムなど、内部障害に対する理学療法を学ぶ。また、近年では慢性腎臓病やがんに対するリハビリテーションも行われるようになり、その概要についても説明する。						
学修の到達目標						
①呼吸理学療法(コンディショニング、運動療法、ADLトレーニング)について説明できる。 ②心肺運動負荷試験および心疾患の運動療法について説明できる。 ③糖尿病、末梢循環障害、慢性腎臓病に対する運動療法について説明できる。 ④がんのリハビリテーションについて説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	呼吸理学療法のための評価	①		講義	教科書(p.179-188, p.195-203)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
2	呼吸理学療法のための評価	①		講義	教科書(p.209-214, p.217-219)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
3	呼吸器疾患の理学療法	①		講義	教科書(p.220-238)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
4	呼吸器疾患の理学療法	①		講義	教科書(p.239-249)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
5	呼吸器疾患の理学療法(呼吸介助法)	①		演習	教科書(p.285-295)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
6	運動耐容能とその評価(心肺運動負荷試験)	②		講義	教科書(p.39-46)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
7	運動耐容能とその評価(心肺運動負荷試験)	②		演習	教科書(p.39-46)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
8	心疾患の運動療法	②		講義	教科書(p.71-80)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)
9	末梢循環障害の理学療法	③		講義	教科書(p.115-130)に目を通しておくこと(30分)	授業内容の復習をすること(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	糖尿病の理学療法	③		講義	教科書 (p.345-374) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
11	糖尿病の理学療法	③		講義	教科書 (p.345-374) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
12	慢性腎臓病に対するリハビリテーション	③		講義	教科書 (p.141-153) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
13	がんのリハビリテーション	④		講義	教科書 (p.375-398) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
14	気道内分泌物吸引法	①		講義 演習	教科書 (p.298-305) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
15	救命処置の流れ (心肺蘇生法とAED)	②		講義	教科書 (p.30) に目を通しておくこと (30分)	授業内容の復習をすること (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、小テスト (30%)、定期試験 (70%) とする。						
使用教科書						
内部障害理学療法学テキスト / 細田多穂.--改訂第3版--南江堂, 2017年12月, ISBN978-4-524-25479-8						
参考図書						
適宜紹介する						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	小テストを実施し理解度を確認します。小テストの問題に対する解説 (フィードバック) は授業内に行います。					
備考	質問等がある場合は、授業終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員				
地域理学療法学		堀 信宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		堀信宏(理学療法士)				
授業概要						
地域で生活を行う障害者は身体機能だけでなく、生活環境やキーパーソンの有無、医療・福祉サービスの可否などの要因により、生活の質(QOL)が異なってくる。地域理学療法学では障害を持つ方の在宅生活を様々な視点から検討する。授業後半は「在宅生活」をKeywordとした症例検討を実施する。						
学修の到達目標						
各種施設や、サービスの内容について学ぶ。将来就職先として「どのような施設サービスがあり、実際にどのような業務内容を行うのか」を理解する手がかりとする。また疾患の特性を考慮し、在宅生活が送れるようにディスカッションを通じて検討する。思考過程の修得を目指す。 ①各種施設や、サービスの内容について理解する。 ②在宅生活に関わる法律・制度を理解する。 ③疾患の特性を考慮し、様々な疾患の在宅生活についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指す。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	地域リハビリテーションの概念・定義	① ②	堀	講義	教科書の初版と第4版の「序」を読んでおきましょう(120分)	地域理学療法のエリアがどの範囲なのか整理しておきましょう(120分)
2	病期と回復期リハビリテーション病棟、療養病床	①	堀	講義	教科書p7～11までを読んで、近年の地域リハの推移を確認しましょう(120分)	理学療法士が関わる病院機能について整理しておきましょう(120分)
3	地域包括ケアシステムと地域連携	②	堀	講義	教科書p.18～23までを読んでおきましょう(120分)	地域包括ケアシステムに関わる会議、マネジメントを整理しておきましょう(120分)
4	介護保険制度	②	堀	講義	教科書p.36～44までを読んでおきましょう(120分)	要介護認定までの流れを整理しておきましょう(120分)
5	介護保険下の入所サービスの展開	①	堀	講義	教科書p.68～73までを読んでおきましょう(120分)	介護保険3施設の違いを整理しておきましょう(120分)
6	施設のリスクマネジメント	①	堀	講義	教科書p.118～125までを読んでおきましょう(120分)	介護保険3施設のリスクをまとめましょう(120分)
7	介護保険下の通所サービス・訪問理学療法の展開	①	堀	講義	教科書p.74～90までを読んでおきましょう(120分)	通所サービス・訪問理学療法の機能の違いを整理しておきましょう(120分)
8	訪問のリスクマネジメント	①	堀	講義	教科書p.126～131までを読んでおきましょう(120分)	通所サービス・訪問理学療法のリスクを整理しておきましょう(120分)
9	維持期リハと短期入所サービスの展開	①	堀	講義	教科書p.24～32までを読んでおきましょう(120分)	短期入所サービスの機能を整理しておきましょう(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症例検討1：パーキンソン病の在宅生活	③	堀	講義	教科書p.165を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
11	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活	③	堀	講義	教科書p.166を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
12	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活②	③	堀	講義	教科書p.166を読んでおきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
13	症例検討3：リウマチ疾患の在宅生活	③	堀	講義	整形外科の教科書でRA疾患について確認しておきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
14	症例検討4：筋ジストロフィー症の在宅生活	③	堀	講義	病気がみえる脳を読んで筋ジス疾患について確認しておきましょう(120分)	在宅生活における疾患特有の問題を整理しましょう(120分)
15	地域における健康増進	②	堀	講義	教科書p.219～224までを読んでおきましょう(120分)	健康増進に関わる制度や用語の整理をしましょう(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
期末試験100%						
使用教科書						
標準理学療法学 地域理学療法学 / 牧田光代編集.--第4版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02851-6 資料を配布する. 小テストを適宜実施する.						
参考図書						
理学療法テキスト高齢者理学療法学 (Medicalview) シンプル理学療法シリーズ高齢者理学療法学テキスト第2版 (南江堂)						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストは添削後, 返却する					
備考	症例検討では障碍者が在宅生活を送るために何が必要なのか考えてもらいます. 「自分が担当者だったら・・・」という思いで臨んで下さい. 臨床の理学療法士から各サービスの仕事内容を聞きます. 将来の就職先としてイメージして欲しい. 積極的な参加を期待する.					

授業科目名		担当教員				
通所／訪問リハ実習		長谷部 武久・他 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(45時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
地域包括ケアシステムの導入に伴い、各市町村を中心に様々な準備、システムの構築が行われている。理学療法士として、療養者の在宅支援・地域で生活する方々を支援するための知識・技能について考える。また、地域の中で生活する方々の多様な価値観および健康の課題を認め、理学療法士としての各施設での役割を理解することを目的とする。地域で働く理学療法士に求められる基本的な知識・技能・態度を身につける。特に、多職種との連携を行う上で必要なコミュニケーション術の基本を身につける。						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な接遇やコミュニケーション技法を理解する。</li> <li>療養者の障害像を理解する。</li> <li>在宅支援・地域での理学療法士の役割を理解する。</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習前オリエンテーション (学内)					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報保護についての指導を行う。					
	臨床実習 (学外)					
	45時間(1週間)の学外実習(通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション)を実施する。指導は教員と連携を取りながら、実習施設の実習指導者が行う。見学を通じて、在宅で生活する療養者およびその家族の生活を理解する。スケジュール等は、施設のルールに従うこと。					

評価基準・評価方法	
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題や報告会の内容をもとに学内にて判定する。	
使用教科書	
参考図書	
臨床実習要項（配布）	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
評価実習前セミナー		曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻圭一・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 曾田 直樹)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		曾田直樹(理学療法士)、河合克尚(理学療法士)、大場かおり(理学療法士)、田島嘉人(理学療法士)、石田裕保(理学療法士)、辻圭一(理学療法士)、藤橋雄一郎(理学療法士)、植木努(理学療法士)、亀山咲子(理学療法士)				
授業概要						
評価実習前セミナーでは小グループに分かれ、教員がファシリテーターとして、学生の主体性を持った学習を奨励していく。その中で理学療法評価の意義を理解し、特定の疾患に限らず広範囲に用いられる理学療法評価の基本的な検査・測定手技・移乗介助および評価の記載方法を習得する。また講義では、グループワークやディスカッション、ディベートを活用し学びを深めていく。						
学修の到達目標						
①患者像から歩行分析、文章化、評価項目の抽出、統合と解釈の一連の流れの学習 ②基本的な検査・測定手技および評価の記載方法を習得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイタルサイン・問診・コミュニケーション	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
2	四肢長・周径測定	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
3	関節可動域測定	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
4	徒手筋力検査	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
5	深部反射・病的反射検査	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
6	表在・深部覚検査・痛みの評価	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
7	整形疾患の検査	① ②	全員		配布資料による予習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
8	筋緊張検査	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)
9	平衡機能検査	① ②	全員		今回の項目の復習(30分)	レポートおよび技術の復習(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	失調症検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
11	運動麻痺検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
12	高次脳機能検査	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
13	移乗介助 人工股関節患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
14	移乗介助 対麻痺・四肢麻痺患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
15	動作介助 片麻痺患者	① ②	全員		今回の項目の復習 (30分)	レポートおよび技術 の復習 (30分)
評価基準・評価方法						
評価基準および評価方法：症例レポート(80%)、知識(口頭試問)及び実技試験(10%)、実習評価表での評価(5%)、グループ学習の参加度(5%)						
使用教科書						
理学療法評価学 / 松澤 正/江口 勝彦.--第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7 理学療法評価学 / 市橋則明.--文光堂, 2016年, ISBN978-4-8306-4537-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	演習時に随時フィードバック					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅱ（評価）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子・澤村 彰吾（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	4単位(180時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
臨床実習指導者の指導・監督の下、対象者に対して理学療法評価を実施する。また、適切な記録、指導者への報告・連絡・相談といった理学療法士として必要な資質（態度）を症例の評価を通じて学んでいく。						
学修の到達目標						
①臨床実習指導者の監督の下、情報収集、検査・測定が実施できる。 ②デリーノートへの記録、実習指導者への報告・連絡・相談ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報などの指導を行う。					
	・4週間の学外実習					
	担当症例に関する情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定の実施、基本動作の介助などを体験する。					

評価基準・評価方法	
担当実習指導者の評定（臨床実習評価表を用いる）、課題の内容をもとに学内で判定する。 必要に応じ、実習に必要なと思われる知識、技術の確認テストを実施し、判定に加える。	
使用教科書	
参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題については、コメントを入れて返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。 安全管理や専門職として取るべき態度などは、実習要件として重視する。

授業科目名		担当教員				
評価実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
臨床実習Ⅱ(評価)終了後、実習報告と臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施し、その結果を臨床実習Ⅲ(総合前期)に繋げる						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を踏まえ、検査測定・評価の目的を理解する</li> <li>・正確かつ安全に検査・測定ができる</li> <li>・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる</li> <li>・臨床実習Ⅲ(総合前期)に向けて、不足している知識や技術を把握する</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価・治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する(内容や発表形式は自由)。					
	・臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施する。					
	コミュニケーション能力, リスク管理能力, 検査・測定の正確性, 移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習報告会 (50%) OSCE (50%)						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅲ（総合前期）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 前学期	7単位(315時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
<p>これまでに学んだ基本的な評価方法を用い、理学療法計画立案、様々な医療現場での活動参加を実践する。また、必要に応じた理学療法計画の変更、他部門からの情報収集、記録・報告、医療従事者としての適切な人間関係の構築等、より臨床的な思考過程や実践的な内容を臨床実習指導者の下で学ぶ。</p>						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者や施設、病院スタッフとの良好な人間関係を構築することができる</li> <li>・理学療法評価、治療の流れを実践することができる</li> <li>・施設の管理や運営について考えることができる</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報保護についての指導を行う。					
	・臨床実習（学外）					
	315時間（7週間）の学外実習を実施する。指導は教員と連携を取りながら、実習施設の実習指導者が行う。担当症例に関する情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定・治療の実施、基本動作の介助を行う。					
	スケジュール等は、施設のルールに従うこと。					

評価基準・評価方法	
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題の内容をもとに学内にて判定する。	
使用教科書	
参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
総合前期実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
臨床実習Ⅲ(総合前期)終了後、実習報告と臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施し、その結果を臨床実習Ⅳ(総合後期)に繋げる						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を踏まえ、検査測定・評価・治療の目的を理解する</li> <li>・正確かつ安全に検査・測定ができる</li> <li>・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる</li> <li>・臨床実習Ⅳ(総合後期)に向けて、不足している知識や技術を把握する</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価・治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する。内容や発表形式は自由とする。					
	・臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施する。					
	コミュニケーション能力, リスク管理能力, 検査・測定の正確性, 移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
実習報告会 (50%) OSCE (50%)						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

授業科目名		担当教員				
臨床実習Ⅳ（総合後期）		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子（代表教員 長谷部 武久）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 後学期	7単位(315時間)		実習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
施設・病院等で担当症例のゴール設定までの理学療法評価を行い、臨床実習指導者の下、理学療法計画を作成し、実施する。また様々な臨床現場での活動に参加する。これまで学んだ知識、技術、臨床的な思考過程を更に発展させる機会とする。						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者や施設、病院スタッフとの良好な人間関係を構築することができる</li> <li>・理学療法評価、治療の流れを実践することができる</li> <li>・施設の管理や運営について考えることができる</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習前オリエンテーション（学内）					
	実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報保護についての指導を行う。					
	・臨床実習（学外）					
	315時間（7週間）の学外実習を実施する。指導は教員と連携を取りながら実習施設の実習指導者が行う。担当症例に関する情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定・治療の実施、基本動作の介助を行う。					
	スケジュール等は、施設のルールに従うこと。					

評価基準・評価方法	
実習指導者の評定（臨床実習評価表を使用），課題の内容をもとに学内にて判定する。	
使用教科書	
参考図書	
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	実習指導者にデイリーノートを毎日提出する。速やかに添削して返却する。
備考	学外施設にて実習を行う。身嗜み・言葉使い・規則などが学内とは異なることを十分に意識すること。なお、実習着を着用すること。

授業科目名		担当教員				
総合後期実習後セミナー		長谷部 武久・曾田 直樹・堀 信宏・河合 克尚・辻 圭一・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努・亀山 咲子 (代表教員 長谷部 武久)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)理学ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。		長谷部武久 曾田直樹 堀信宏 河合克尚 辻圭一 田島嘉人 大場かおり 石田裕保 藤橋雄一郎 植木努 亀山咲子 澤村彰吾 (全て理学療法士)				
授業概要						
臨床実習Ⅳ(総合後期)終了後、実習報告と臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施し、その結果を理学療法士としての臨床業務、そして生涯学習に繋げる。						
学修の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を踏まえ、検査測定・評価の目的を理解する</li> <li>・正確かつ安全に検査・測定ができる</li> <li>・学習内容をプレゼンテーションするための情報収集ができる</li> <li>・理学療法士として、不足している知識や技術を把握する</li> </ul>						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習報告の実施					
	実習期間中に記載したデイリーノートの内容をもとに、知識・技術・評価治療など臨床実習で学んだことや体験したことについてレジュメを作成、発表する(内容や発表形式は自由)。					
	・臨床能力評価(Post Clinical Clerkship OSCE)の実施					
	実習での基本的理学療法技術の習得状況とともに、学生の成長を確認するために実技試験(Post Clinical Clerkship OSCE)を実施する。					
	コミュニケーション能力, リスク管理能力, 検査・測定の正確性, 移乗動作介助の安全性などについて確認する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
評価基準・評価方法						
OSCE (50%) 理学療法対象疾患に関する筆記試験 (50%)						
使用教科書						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	OSCEの結果は速やかに開示する					
備考						

# リハビリテーション学科理学療法専攻 授業担当者索引

## …あ 行…

安藤 彰浩	非常勤講師
石田 裕保	理学療法専攻准教授
伊原 亮司	非常勤講師
植木 努	理学療法専攻准教授
江村 正一	理学療法専攻特任教授
大井 修三	非常勤講師
大津 航	非常勤講師
大場 かおり	理学療法専攻准教授
大森 正英	非常勤講師
大藪 千穂	非常勤講師

## …か 行…

亀山 咲子	理学療法専攻助教
河合 克尚	理学療法専攻教授
川島 卓	非常勤講師
岸本 泰樹	非常勤講師
木村 暁夫	非常勤講師
國枝 顕二郎	非常勤講師
久保 和弘	非常勤講師
神戸 博一	非常勤講師
河村 章史	作業療法専攻教授
近藤 富雄	非常勤講師
近藤 直実	顧問
近藤 ひろえ	非常勤講師

## …さ 行…

眞田 正世	看護学科教授
澤村 彰吾	理学療法専攻助教
篠田 信之	非常勤講師
下畑 享良	非常勤講師
ジャマリ・マルジャン	非常勤講師
千田 隆夫	非常勤講師
曾田 直樹	理学療法専攻教授

## …た 行…

高田 信幸	非常勤講師
竹内 章郎	非常勤講師
竹腰 顕	非常勤講師
田島 嘉人	理学療法専攻教授
谷口 泰弘	非常勤講師
辻 圭一	理学療法専攻教授

## …な 行…

中村 琢	非常勤講師
西本 裕	非常勤講師

## …は 行…

橋本 永貢子	非常勤講師
長谷部 武久	理学療法専攻教授
坂 義人	非常勤講師
平野 智久	理事長
東田 和博	非常勤講師
福岡 大輔	非常勤講師
藤橋 雄一郎	理学療法専攻准教授
武内 康雄	学長
古田 弥生	看護学科准教授
堀 信宏	理学療法専攻教授
堀田 亮	非常勤講師

## …ま 行…

益川 優子	非常勤講師
松岡 敏男	非常勤講師
松田 充弘	非常勤講師
宮地 幸雄	非常勤講師
ミホト・セイト・モハト	非常勤講師
武藤 吉徳	非常勤講師

## …や 行…

山田 宏尚	非常勤講師
山田 恵	非常勤講師
山本 眞由美	非常勤講師
山本 容正	非常勤講師
弓削 繁	非常勤講師
吉倉 延亮	非常勤講師

